

日本地震学会 2012 年度秋季大会プログラム

日程 2012 年 10 月 16 日 (火) ~ 19 日 (金)
 会場 函館市民会館・函館市民体育館 (函館市)

受付：市民会館ホワイエ (1F) ポスター会場：第一体育室 (体育館 3F)
 A会場：大ホール (市民会館 1・2F) B会場：小ホール (市民会館 3F)
 C会場：大会議室 (市民会館 3F) D会場：体育館大会議室 (体育館 2F)

		A会場	B会場	C会場	D会場
10 月 16 日 (火)	16:00 ~ 20:00	特別シンポジウム 『ブループリント』50 周年 - 地震研究の歩みと今後			
10 月 17 日 (水)	9:15 ~ 12:30	地震発生の物理	地殻構造	テクトニクス, 津波	地震計測・処理システム, 地震予知
	13:30 ~ 14:50	若手学術奨励賞 記念講演			
	15:00 ~ 17:00	地震発生の物理	地殻構造	津波	地震予知, 地震に伴う諸現象
	17:00 ~ 18:30	ポスターセッション (地震計測・処理システム, テクトニクス, 地殻構造, 地震発生の物理, 地震予知, 津波)			
10 月 18 日 (木)	9:00 ~ 12:15	地震発生の物理	地殻構造	地盤構造・地盤震動, 地殻変動・GPS・重力	活断層・歴史地震
	13:15 ~ 17:00	地震一般・その他, 大地震の発生に至る過程の 多様性の理解とモデル化	強震動・地震災害	地殻変動・GPS・重力	地震の理論・解析法, 地球及び惑星の深部構造 と物性
	17:00 ~ 18:30	ポスターセッション (地震の理論・解析法, 地殻変動・GPS・重力, 地球熱学, 地球及び惑星の深部構造と物性, 活断層・歴史地震, 地球化学・地下水, 地盤構造・地盤震動, 地震一般・その他, 大地震の発生に至る過程の多様性の理解とモデル化)			
	19:00 ~ 21:00	懇 親 会 (会場：花びしホテル 2F 芙蓉の間)			
10 月 19 日 (金)	9:00 ~ 12:30	大地震の発生に至る過程の 多様性の理解とモデル化	強震動・地震災害	地震活動	岩石実験・地殻応力, 地震教育・地震学史
	13:15 ~ 14:45	ポスターセッション (地震活動, 岩石実験・地殻応力, 強震動・地震災害)			
	14:45 ~ 15:45	大地震の発生に至る過程の 多様性の理解とモデル化	強震動・地震災害	地震活動	

10月16日(火) 16:00～20:00 A会場

特別シンポジウム(「ブループリント」50周年—地震研究の歩みと今後)

16:00		開会挨拶	小山順二(北大理)
16:10	S-01*	「ブループリント」と「地震予知計画」—成果と問題点再考—	°津村建四朗(地震予知振興会)
16:40	S-02*	地震予知のための観測研究の歩み—阪神・淡路大震災以降—	°平田直(東大地震研)
17:10	S-03*	避けて通れない予知研究の総括	°ゲラー ロバート(東大理)
17:40		休憩	
17:55	S-04*	ブループリントの目的と将来の方向	°金森博雄(カリフォルニア工科大学)
18:25	S-05*	海陸統合観測網の時代—青写真と現実—	°日野亮太(東北大理)
18:45	S-06*	地震発生物理と前兆現象	°中谷正生(東大地震研)
19:05		総合討論の課題整理	松浦律子(地震予知振興会)
19:20		総合討論	
19:50		閉会挨拶	加藤照之(東大地震研)

10月17日(水) 9:15～12:30 A会場

地震発生の物理

(講演時間12分・質疑応答3分)

座長 松澤孝紀・上西幸司・寺川寿子・光藤哲也

9:15	A11-01	Global Search of Deep Triggered Non-Volcanic Tremor	°Kevin Chao, Kazushige Obara (ERI, Univ. Tokyo) Zhigang Peng (Georgia Institute of Technology), Bogdan Enescu (NIED), Bill Fry (GNS) Hector Gonzalez-Huizar (Univ. Texas at El Paso) Chastity Aiken, Gregory Armstrong (Georgia Institute of Technology)
9:30	A11-02	福島・茨城沖の超低周波地震	°松澤孝紀・浅野陽一(防災科研)・小原一成(東大地震研)
9:45	A11-03	立体アレーを用いた深部低周波地震(LFE)のP波とS波の検出(3)	°鈴木貞臣・大久保慎人・雑賀 敦(東濃地震科研) 今西和俊・北川有一・武田直人(産総研)
10:00	A11-04	島根県東部における準火山性深部低周波地震の震源メカニズム解析	°麻生尚文・太田和晃・井出 哲(東大理)
10:15	A11-05	沈み込み帯における深部微動と温度の関係	°矢部 優・井出 哲(東大理)・吉岡祥一(神戸大都市安セ)

*は招待講演

- 10:30 A11-06 日本各地で検出された誘発微動の発生原因
 °小原一成・Kevin Chao (東大地震研)・松澤孝紀 (防災科研)
- 10:45 A11-07 Seaquakes: A One-Dimensional Model
 ° Koji Uenishi (Sch. Eng., Univ. Tokyo), Shunsuke Sakurai (Constr. Eng. Res. Inst. Found.)
- 11:00 休憩
- 11:15 A11-08 地震メカニズムトモグラフィ法による御嶽山周辺域の3D 間隙流体圧分布
 °寺川寿子・中道治久・山中佳子・渡辺俊樹・奥田 隆・堀川信一郎・山崎文人 (名大環境)
- 11:30 A11-09 山陰地方地震帯とその周辺における応力場の空間変化と3D地震波速度構造
 °岸本信二・飯尾能久・中尾節郎・近藤和男・坂 靖範
 三浦 勉・米田 格・片尾 浩・澁谷拓郎 (京大防災研)
- 11:45 A11-10 二次元 forest-fire モデルにおける大地震の再帰性と大偏差関数
 °光藤哲也・加藤尚之 (東大地震研)
- 12:00 A11-11 すべり分布のスケーリング
 °吉田知江・葛葉泰久 (三重大院生物資源)・古川文菜 (三重大生物資源)
- 12:15 A11-12 震源域の構造不均質により生じる応力不均質と震源過程-滑り量分布による評価
 °宮武 隆 (東大地震研)

10月17日(水) 9:15~12:30 B会場

地殻構造

(講演時間12分・質疑応答3分)

座長 大久保慎人・津村紀子・野 徹雄・藤江 剛

- 9:15 B11-01 高密度・高速サンプリングの地震計アレイ観測による地震波速度の推定
 °雑賀 敦・大久保慎人 (東濃地震科研)
- 9:30 B11-02 高周波地震動観測による地震波速度の周波数依存性-地震波速度と間隙水圧の関係-
 °大久保慎人・雑賀 敦・佐野 修 (東濃地震科研)
- 9:45 B11-03 弾性波アクロスを用いた地殻の地震波速度変化連続監視-土岐弾性波アクロス送信を例にして-
 °國友孝洋 (名大院環境)
- 10:00 B11-04 ACROSSによる淡路島野島断層近傍の長期地震波モニタリング
 °生田領野 (静岡大)・山岡耕春・渡辺俊樹・國友孝洋 (名大)・西上欽也 (京大防災研)
- 10:15 B11-05 雑微動の再解析による2007年能登半島地震に伴う震源域周辺の地震波速度変化について
 °大見士朗 (京大防災研)
- 10:30 B11-06 能登半島地震震源域における地震波減衰構造
 °津村紀子・吉住武倫 (千葉大理)・小林理紗 (JX日鉱日石)
 能登半島地震合同観測グループ (東大地震研)
- 10:45 B11-07 長岡地域の震源分布と速度構造
 °関根秀太郎・澤田義博・笠原敬司・佐々木俊二・田澤芳博 (地震予知振興会)
 加藤愛太郎 (東大地震研)・堀内茂木 (ホームサイスマ)
- 11:00 休憩
- 11:15 B11-08 反射法地震探査からみる日本海東縁ひずみ集中帯における地殻構造
 °野 徹雄・佐藤 壮・高橋成実・小平秀一・金田義行 (JAMSTEC)
 石山達也・佐藤比呂志 (東大地震研)

- 11:30 B11-09 地震探査による日本海東縁部・1983年日本海中部地震震源域～日本海盆南縁部の地震波速度構造変化
 °佐藤 壮・野 徹雄・高橋成実・小平秀一・金田義行 (JAMSTEC)・吉田武義 (東北大理)
- 11:45 B11-10 CRS/MDRS法を用いた1998-2000年北海道日高衝突帯反射法地震探査データの統合処理
 °岩崎貴哉・佐藤比呂志・蔵下英司・平田 直 (東大地震研)
 伊藤谷生 (平成帝京大)・阿部 進・野田克也 (地科研)
- 12:00 B11-11 北海道下の3次元地震波減衰構造：島弧-島弧衝突とM7クラス内陸大地震
 °北 佐枝子・中島淳一・岡田知己・長谷川 昭 (東北大)・勝俣 啓 (北大)
- 12:15 B11-12 沈み込む海洋プレートの構造進化とその不均質性-千島海溝・日本海溝 会合部-
 °藤江 剛・小平秀一・佐藤 壮・高橋 努 (JAMSTEC)

10月17日(水) 9:15～11:00 C会場

テクトニクス, 津波

(講演時間12分・質疑応答3分)

座長 田中明子・矢部康男

テクトニクス

- 9:15 C11-01 歪みの経路積分による変位場の表現
 °松浦充宏 (統計数理研)・野田朱美 (構造計画研)
- 9:30 C11-02 ひずみ集中帯と2011年東北地方太平洋沖地震(M9.0)時の地殻変動異常を再現する東北日本下のレオロジーモデル
 °矢部康男 (東北大理)・大園真子 (北大理)・太田雄策 (東北大理)
 飯沼卓史 (東北大災害研)・武藤 潤 (東北大理)
- 9:45 C11-03 関東地方下での、フィリピン海スラブと上盤との相対運動の方向と速度の変則性
 °篠島僚平 (名大)
- 10:00 C11-04 地殻熱流量データの活用に向けて
 °田中明子・後藤秀作・阪口圭一 (産総研)
- 10:15 C11-05 固い科学と柔らかい科学
 °高橋雅紀 (産総研)

津波

- 10:30 C11-06 津波発生域における多点海底圧力観測から見る津波とその初期時空間発展
 °稲津大祐・齊藤竜彦 (防災科研)
- 10:45 C11-07 DONET海域および宮城沖を対象とした海底水圧データによる津波増幅率の推定
 °馬場俊孝・高橋成実・金田義行 (JAMSTEC)・日野亮太 (東北大)・稲津大祐 (防災科研)

10月17日(水) 11:15～12:30 C会場

津波

(講演時間12分・質疑応答3分)

座長 稲津大祐・前田拓人

- 11:15 C11-08 tFISH/RAPiD：沖合津波・陸上GPSデータの統合解析による近地津波の即時予測手法の開発
 °対馬弘晃 (気象研)・日野亮太・太田雄策・飯沼卓史 (東北大)

- 11:30 C11-09 リアルタイム津波モニタリング法としての津波データ同化の適用可能性
 °前田拓人・小原一成・篠原雅尚（東大地震研）・金沢敏彦・植平賢司（防災科研）
- 11:45 C11-10 検潮記録にみる閉鎖性内湾の津波の伝播と波高分布
 °岡田正実（気象研）・阿部邦昭（日歯大新潟短大）
- 12:00 C11-11 検潮記録の読み取りによる8津波の減衰率
 °阿部邦昭（日歯大新潟短大）・岡田正実（気象研）
- 12:15 C11-12 函館における津波の波高増幅度
 °羽鳥徳太郎

10月17日（水）9:15～11:00 D会場

地震計測・処理システム
 （講演時間12分・質疑応答3分）
 座長 鶴岡 弘・高森昭光

- 9:15 D11-01 直交3成分地震波データを用いたコヒーレンス関数による相似地震解析
 °大久保 寛・川上大喜・宮本祐子（首都大シスデザ）
 内田直希・竹内伸直・松澤 暢（東北大理地予セ）
- 9:30 D11-02 巨大地震に対する早期地震警報判断手法
 °他谷周一・児玉 聡（東海旅客鉄道（株））
- 9:45 D11-03 Automated seismic moment tensor determination system by using W-phase source inversion
 °鶴岡 弘（東大地震研）・L. Rivera (Univ. Strasbourg)・川勝 均（東大地震研）
- 10:00 D11-04 人間以上に高精度の地震波自動読み取りシステムの開発（その3）
 °堀内茂木・堀内優子（ホームサイスマ）・飯尾能久・高田陽一郎
 三浦 勉（京大防災研）・澤田義博・関根秀太郎（地震予知振興会）・岡田知己
 日野亮太（東北大学）・酒井慎一・ト部 卓（東大地震研）・桑原保人・今西和俊（産総研）
- 10:15 D11-05 ボアホール型折りたたみ振子傾斜計の開発3
 °高森昭光（東大地震研）・Alessandro Bertolini（マックスプランク研究所）
 Riccardo DeSalvo（カリフォルニア工科大学）・金沢敏彦・篠原雅尚・新谷昌人（東大地震研）
- 10:30 D11-06 開発した連続観測用応力計 -性能と信頼性-
 °石井 紘・浅井康広（東濃地震研）
- 10:45 D11-07 スロー地震観測を目指したレーザー干渉型歪偏差計の開発
 °出口雄大・新谷昌人（東大地震研）

10月17日（水）11:15～12:30 D会場

地震計測・処理システム，地震予知
 （講演時間12分・質疑応答3分）
 座長 植平賢司・小林直樹

地震計測・処理システム

- 11:15 D11-08 広帯域海底地震計を基にした測地学的観測への取り組み
 °塩原 肇・篠原雅尚・一瀬建日・中東和夫（東大地震研）

- 11:30 D11-09 日本海溝海底地震津波観測網の概要
 °植平賢司・金沢敏彦・野口伸一・功刀 卓・汐見勝彦・青井 真・関口渉次
 松本拓己・岡田義光 (防災科研)・篠原雅尚・山田知朗 (東大地震研)
- 11:45 D11-10 SELENE-2 広帯域月震計の噛み合わせ試験報告
 °小林直樹・白石浩章・小川和律 (ISAS)・山田竜平 (NAOJ)・飯島祐一 (ISAS)
 T. Nebut・S. de Raucourt (IPGP)・M. Bierwirth・R. Roll (MPI)・P. Lognonné (IPGP)
 鹿熊英昭 (中央大)・SELENE-2 LBBS チーム
- 地震予知**
- 12:00 D11-11 東海地震予知は幻
 °高橋耕三
- 12:15 D11-12 鈴波は南海地震特有の前兆現象
 °中村不二夫 (海里マリン病院)

10月17日(水) 13:30～14:50 A会場

若手学術奨励賞記念講演
 (講演時間 20分・質疑応答 5分)
 座長 八木勇治

- 13:30 会長挨拶 加藤照之 (日本地震学会会長)
- 13:35 A12-01* GPS データ解析の高度化とそれに基づく地震発生過程に関する研究
 °太田雄策 (東北大理)
- 14:00 A12-02* 波形インバージョンによる詳細な地球内部構造推定およびその地球物理的解釈
 °河合研志 (UCSB/ 東工大)
- 14:25 A12-03* 高周波数地震波の散乱及び減衰に着目した地下構造イメージングに関する研究
 °高橋 努 (IFREE, JAMSTEC)

10月17日(水) 15:00～17:00 A会場

地震発生の物理
 (講演時間 12分・質疑応答 3分)
 座長 鈴木岳人・安藤亮輔

- 15:00 A12-04 断層運動による地盤変形評価のためのマルチスケール・マルチフィジクスシミュレーション
 °安藤亮輔・竿本英貴 (産総研活断層セ)
- 15:15 A12-05 XBIEM を用いた二層媒質中の動的破壊計算コード開発
 °日下部哲也・亀 伸樹 (東大地震研)
- 15:30 A12-06 動的滑りに対する脱水反応、ダイラタンシー強化及び摩擦発熱の統合効果 - 1次元解析
 °山下輝夫 (東大地震研)
- 15:45 A12-07 動的すべりと空隙率変化の非線形相互作用：非整数階微分を用いた解析
 °川田祐介・山下輝夫 (東大地震研)

*は招待講演

- 16:00 A12-08 2つの無次元数による繰り返し地震の発生間隔とモーメントの理解
 °鈴木岳人（東大理）・山下輝夫（東大地震研）
- 16:15 A12-09 修正された状態・速度依存摩擦則に従う震源核形成過程
 °亀 伸樹・藤田哲史・中谷正生・日下部哲也（東大地震研）
- 16:30 A12-10 プレート境界地震に関わる断層浅部の動力学モデルによる地震時挙動シミュレーション(その2)
 °津田健一・ドルジャバラム サロル・壇 一男・小川幸雄・渡辺孝英（大崎総研）
 浦谷裕明・岩瀬 聡（中部電力）
- 16:45 A12-11 津波地震は浅部巨大地震のなりそこないか？
 -運動学インバージョンと動力学計算から示唆されること-
 °三井雄太（北大理）・八木勇治（筑波大）

10月17日（水）15:00～17:00 B会場

地殻構造

（講演時間12分・質疑応答3分）

座長 岡田知己・小平秀一

- 15:00 B12-01 東北地方下における海洋性地殻の速度構造
 °椎名高裕・中島淳一・松澤 暢（東北大理予知セ）
- 15:15 B12-02 Hi-net 読み取り値データを用いた日本列島の異方性速度構造解析（その1）
 東北地方の3次元異方性速度構造の再検討
 °石瀬素子・川勝 均（東大地震研）・汐見勝彦（防災科研）
- 15:30 B12-03 剥ぎ取り法を用いた東北地方の異方性構造の推定
 °渡辺光美・小田 仁（岡大院自）
- 15:45 B12-04 東北地方西部地域の地殻構造と地震活動
 °岡田知己・米川真紀・吉田圭佑・高木涼太・松澤 暢（東北大理予知セ）
 2011年東北地方太平洋沖地震合同余震観測グループ
- 16:00 B12-05 2011年東北沖地震：震源断層の構造イメージとその地震時変動
 °小平秀一・野 徹雄・中村恭之・三浦誠一・富士原敏也
 海宝由佳・藤江 剛・高橋成実・金田義行（JAMSTEC）
- 16:15 B12-06 相似地震を用いた2011年東北地方太平洋沖地震に伴う地震波速度変化の推定
 °高木涼太・内田直希・岡田知己・長谷川 昭（東北大理予知セ）
- 16:30 B12-07 秋田県森吉山周辺で発生した浅発地震の波形に含まれる散乱波の特徴
 °小菅正裕（弘前大理工）
- 16:45 B12-08 深井戸観測記録と深部地盤構造モデル用いたS-wavevector レシーバ関数解析による関東平野下のプレート構造の推定
 °村越 匠（防衛大）・竹中博士（九大）

10月17日（水）15:00～17:00 C会場

津波

（講演時間12分・質疑応答3分）

座長 高川智博・齊藤竜彦

- 15:00 C12-01 日本海東縁・北海道奥尻島の巨大津波履歴
 °平川一臣（北大）・川上源太郎・田近 淳・廣瀬 亘・深見浩司（道総研）
- 15:15 C12-02 The identification of paleo-tsunamis based on benthonic foraminifera distribution on Ishigaki and Miyako islands
 ° Yoko TU, Masataka ANDO (IES), Masanobu SHISHIKURA (AIST)
 Chih-wei CHIEN (Cheng-Kung Univ.), Mamoru NAKAMURA
 Yasuhisa ARASHRO (Ryukyu Univ.)
- 15:30 C12-03 時間発展および地盤変動を考慮した津波初期水位分布の逆解析：
 2011年東北地方太平洋沖地震津波への適用
 °高川智博・富田孝史（港湾空港技研）
- 15:45 C12-04 Characteristics of the 2011 Japan tsunami records on tide gauge and DART stations across the Pacific Ocean
 ° Mohammad HEIDARZADEH, Kenji SATAKE (ERI, Univ. Tokyo)
- 16:00 C12-05 近地地震における地震動・津波統合3次元数値シミュレーションの新スキーム
 °竹中博士（九州大学）・中村武史（JAMSTEC）・藏本稔大（九州大学）
 岡元太郎（東京工業大学）・豊国源知（東北大学）
- 16:15 C12-06 東北地方太平洋沖地震後の太平洋における津波コーダ
 °齊藤竜彦・稲津大祐・田中佐千子・三好崇之（防災科研）
- 16:30 C12-07 津波波形・GPS地殻変動データの同時インバージョンにより推定された2005年ニアス地震の震源過程
 タトック ヤチマントロ（BMKG, インドネシア）
 °谷岡勇市郎・アディティア グスマン（北大理）
- 16:45 C12-08 ベクトル津波計の特徴について
 °浜野洋三・杉岡裕子（JAMSTEC）・藤 浩明（京都大学）

10月17日（水）15:00～17:00 D会場

地震予知, 地震に伴う諸現象
 (講演時間12分・質疑応答3分)
 座長 前田憲二・筒井 稔

地震予知

- 15:00 D12-01 南海地震発生周期と堆積物
 °山本武美（(株)東建ジオテック）
- 15:15 D12-02 1946年南海地震前の海面変動と検証のための須崎湾における潮位観測
 °梅田康弘・板場智史（産総研）
- 15:30 D12-03 地下水温変化から地下深部の応力変化をさぐる
 °佃 為成（日本女子大）
- 15:45 D12-04 地震検出率のリアルタイム推定、及びその余震予測への応用
 °近江崇宏（JST）・尾形良彦（統計数理研究所）・平田祥人・合原一幸（東大生産研）
- 16:00 D12-05 地震活動の静穏化現象の時間的・空間的安定性
 °吉川澄夫（地磁気観測所）・林元直樹（気象研）・明田川保（気象庁）
- 16:15 D12-06 前震の経験則に基づく地震発生予測－東北地方太平洋沖地震とその後の地震活動への適用－
 °前田憲二・弘瀬冬樹（気象研）

- 16:30 D12-07 1900年から2011年の間の大地震の発生と黒点数との間にはっきりとした相関は認められない
 °杉本拓也・藤井義明(北大工)

地震に伴う諸現象

- 16:45 D12-08 地震に伴って励起された電磁波パルスの検出
 °筒井 稔(京産大コン理工)

10月18日(木) 9:00～12:15 A会場

地震発生の物理

(講演時間12分・質疑応答3分)

座長 内田直希・本多 亮・久保久彦・直井 誠

- 9:00 A21-01 破壊後のアスペリティにおける固着の開始について
 °吉田真吾・中谷正生・加藤尚之(東大地震研)
- 9:15 A21-02 2011年東北地方太平洋沖地震前の海溝近傍の固着状況
 -プレート境界地震のすべり方向からの推定-
 °内田直希・長谷川 昭・松澤 暢(東北大理)
- 9:30 A21-03 余震活動から描き出された2011年東北地方太平洋沖地震の大滑り域
 °加藤愛太郎・五十嵐俊博・福田淳一(東大地震研)
- 9:45 A21-04 Mw estimation of the 2011 Tohoku earthquake in near-real time using waveform inversion
 ° Jimin Lee (NIMR), Wolfgang Friederich (RUB), Thomas Meier (CAU)
- 10:00 A21-05 東濃地震科学研究所の応力連続記録を用いて2011年東北地方太平洋沖地震のライズタイムを見積もる試み
 °川崎一朗・石井 紘・浅井康広(東濃地震科学研)
- 10:15 A21-06 複数のアレイを用いたセンブランス解析による2011年東北地震の大振幅パルスの波源の推定
 °本多 亮・行竹洋平・原田昌武・伊東 博・宮岡一樹・吉田明夫(温地研)
 酒井慎一・中川茂樹・平田 直・小原一成(地震研)・木村尚紀・松原 誠(防災科研)
- 10:30 A21-07 2011年東北地方太平洋沖地震の破壊過程解析のための3次元近地グリーンテンソル波形計算
 °岡元太郎(東工大)・竹中博士(九大)・原 辰彦(建築研)
 中村武史(JAMSTEC)・青木尊之(東工大)
- 10:45 休憩
- 11:00 A21-08 2011年3月11日15時15分の茨城県沖地震(Mw 7.9)の震源過程
 °久保久彦・浅野公之・岩田知孝(京大防災研)
- 11:15 A21-09 遠地実体波によって得られた津波地震の震源過程の特徴
 °江崎隼輝・八木勇治(筑波大生命環境)
- 11:30 A21-10 2012年インドネシア・スマトラ北部西方沖地震の自由振動による解析
 °五十嵐光嗣(東大理)・谷本俊郎(UCSB)
- 11:45 A21-11 Supershear Rupture on Conjugate Faults for the Mw 8.6 Off Northern Sumatra, Indonesia Earthquake of April 11, 2012
 ° Dun Wang, Jim Mori, Takahiko Uchide (DPRI, Kyoto Univ.)

- 12:00 A21-12 南アフリカ金鉱山地下 1 km 深で観察された、クラックが準静的に 20m まで成長したことを示唆する AE 活動
 °直井 誠・中谷正生 (東大地震研)・Joachim Philipp (GMuG)
 堀内茂木 (ホームサイズモメータ)・大槻憲四郎 (東北大)・Thabang Kgarume (CSIR)
 Gilbert Morema (Seismogen)・Sifiso Khambule・Thabang Masakale (OHMS)
 宮川幸治・渡邊篤志 (東大地震研)・森谷祐一 (東北大)・村上 理 (立命館大)
 矢部康男 (東北大)・川方裕則・吉光奈奈 (立命館大)・Tony Ward (Seismogen)
 Ray Durrheim (CSIR)・小笠原 宏 (立命館大)

10月18日(木) 9:00 ~ 12:15 B会場

地殻構造

(講演時間 12 分・質疑応答 3 分)

座長 澁谷拓郎・三好崇之・日野亮太・高橋成実

- 9:00 B21-01 構造研究に基づく南海トラフ域の 3 次元プレート形状と速度構造モデル
 °仲西理子・下村典生・小平秀一・尾鼻浩一郎・高橋 努
 山本揚二郎・高橋成実・金田義行 (JAMSTEC)
- 9:15 B21-02 日向灘から南海地震震源域への構造変化
 °山本揚二郎・尾鼻浩一郎・高橋 努・仲西理子・小平秀一・金田義行 (JAMSTEC)
- 9:30 B21-03 紀伊半島下に沈み込むフィリピン海プレート内 V_p/V_s 比セグメンテーションと低周波地震分布の対応
 °悪原 岳・望月公廣・中東和夫・山田知朗・篠原雅尚・酒井慎一 (東大地震研)
 金沢敏彦・植平賢司 (防災科研)・清水 洋 (九大地震火山セ)
- 9:45 B21-04 紀伊半島下に沈み込むフィリピン海スラブ周辺の 3 次元地震波速度構造 (2)
 °澁谷拓郎・今井基博 (京大防災研)・平原和朗 (京大理)
 中尾節郎・西村和浩 (京大防災研)
- 10:00 B21-05 P 波の後続波でみる四国深部低周波地震の沈み込み下方側の地下構造
 °久家慶子 (京大理)
- 10:15 B21-06 高周波数地震動の伝播特性から見たフィリピン海プレートの形状
 °古村孝志 (東大情報学環)・Simanchal PADHY (NGRI)・前田拓人 (東大地震研)
- 10:30 B21-07 スラブ内地震の地震動シミュレーション：チャンネル波に着目して
 °三好崇之・齊藤竜彦・汐見勝彦 (防災科研)
- 10:45 休憩
- 11:00 B21-08 鉛直地震探査 (VSP) による熊野海盆付加帯の地震波減衰構造
 °日野亮太 (東北大)・辻 健 (九大 I2CNER)・真田佳典 (JAMSTEC)
 朴 進午 (東大大気海洋研)・荒木英一郎・木下正高 (JAMSTEC)
 Nathan Bangs (Texas 大)・Roland von Huene (California 大)・Gregory Moore (Hawaii 大)
- 11:15 B21-09 DONET で観測された地震記録を用いた地震波干渉法による南海トラフの S 波異方性構造探査
 °木村俊則 (JAMSTEC)・三ヶ田 均 (京大)・荒木英一郎・北田数也 (JAMSTEC)
- 11:30 B21-10 南西諸島海溝北端部における奄美海台の沈み込み
 °及川光弘・金田謙太郎・堀内大嗣・西澤あずさ・矢吹哲一朗・加藤幸弘 (海上保安庁)
- 11:45 B21-11 奄美大島西方の火山フロント域を横断する反射法地震探査
 °堀内大嗣・西澤あずさ・金田謙太郎・及川光弘・加藤幸弘・矢吹哲一朗 (海上保安庁)

- 12:00 B21-12 小笠原海嶺前弧域の速度構造と反射面分布
 °高橋成実・山下幹也・小平秀一・海宝由佳・佐藤 壮
 高橋 努・野 徹雄・巽 好幸 (JAMSTEC)

10月18日(木) 9:00～10:45 C会場

地盤構造・地盤震動

(講演時間 12 分・質疑応答 3 分)

座長 吉本和生・大井昌弘

- 9:00 C21-01 震源方位による大規模堆積盆地の震動性状の違い
 - 3次元有限差分法シミュレーションによる検討 -
 °平井 敬 (名大院環境)・福和伸夫 (名大減災セ)
- 9:15 C21-02 首都圏の周期2～4秒のサイト特性を用いた地震調査研究推進本部による三次元地下構造の高度化の試み
 °早川 崇 (清水建設)
- 9:30 C21-03 地震波干渉法による首都圏の地震基盤構造の推定 (Ⅱ)
 °吉本和生 (横浜市大)・平田 直・笠原敬司・小原一成・佐藤比呂志・酒井慎一
 鶴岡 弘・中川茂樹 (東大地震研)・木村尚紀・棚田俊收 (防災科研)
 宮岡一樹 (神奈川県温地研)・中原 恒 (東北大)
- 9:45 C21-04 上町断層帯周辺域における連続微動観測と地震波干渉法による地盤速度構造モデルの検討
 °浅野公之・岩田知孝・関口春子 (京大防災研)
 染井一寛・宮腰 研 (地盤研)・青井 真・功刀 卓 (防災科研)
- 10:00 C21-05 拡散波動場理論に基づく微動 H/V スペクトル計算法の適用性に関する考察
 - 地盤の内部減衰の影響について -
 °安井 讓 (早大)・吉田一博 (清水建設)・前田寿朗 (早大)・川瀬 博 (京大)
- 10:15 C21-06 地震波干渉法を用いた中京地域地下構造モデルの検証
 °林田拓己・吉見雅行・堀川晴央 (産総研活断層セ)
- 10:30 C21-07 神戸市域の浅部地盤モデルの作成
 °大井昌弘・河合伸一 (防災科研)・稲垣賢亮・鈴木晴彦 (応用地質)

10月18日(木) 11:00～12:15 C会場

地殻変動・GPS・重力

(講演時間 12 分・質疑応答 3 分)

座長 野田朱美・松尾功二

- 11:00 C21-08 GPS 歪みデータインバージョンによる東北沖のプレート間すべり遅れ速度の時空間変化
 °野田朱美 (構造計画研)・川里 健・大場政章・渡邊智美 (日本原電)
 田島礼子・澤飯明広 (構造計画研)・松浦充宏 (統計数理研)
- 11:15 C21-09 2011年東北沖地震前の三角・三辺測量とGPS測量による歪速度の比較
 °福島 洋・橋本 学 (京大防災研)・Paul SEGALL (スタンフォード大地物)

- 11:30 C21-10 2011年3月9日三陸沖の地震(Mw7.2)の余効変動の特徴
- 1989年, 1992年岩手県沖の地震の余効変動との比較 -
°太田雄策・日野亮太・三品正明・佐藤忠弘
立花憲司・出町知嗣(東北大理)・三浦 哲(東大地震研)
- 11:45 C21-11 GRACE衛星でみた巨大地震後の重力変化: 長期成分と短期成分の分離
°松尾功二・日置幸介・三井雄太・田中優作(北大院理)
- 12:00 C21-12 GRACE衛星でみた巨大地震後の重力変化: 長期成分と沈み込みの加速
°日置幸介・三井雄太・松尾功二・田中優作(北大院理)

10月18日(木) 9:00~12:15 D会場

活断層・歴史地震

(講演時間12分・質疑応答3分)

座長 武村雅之・宍倉正展・松浦律子・加藤直子

- 9:00 D21-01 歴史地震における被害評価方法の試案
°西山昭仁(東大地震研)
- 9:15 D21-02 北海道と周辺の歴史地震史料: 安永八年, 九年(1780年)ウрупп島沖地震
°中西一郎(京大理)
- 9:30 D21-03 1828年三条地震の強震動シミュレーション: 史料に基づく震源モデルの評価
°三宅弘恵・石瀬素子・額瀨一起・増田 徹・西山昭仁(東大地震研)
鈴木晴彦・真鍋俊平(応用地質)・引間和人(東京電力)
- 9:45 D21-04 1000年前ごろの信濃北部地震について-佐良志奈神社由緒より-
°橋本徹夫(気象庁)
- 10:00 D21-05 天正地震と津波: 史料から確認できること
°松浦律子(地震予知振興会)
- 10:15 D21-06 石川県部入道遺跡の噴砂痕
°平松良浩(金沢大学)・小阪 大(白山市)
- 10:30 D21-07 東南海地震被害の再調査(序報)-昭和19年12月7日13時35分-
°武村雅之(名大減災セ)
- 10:45 休憩
- 11:00 D21-08 津軽半島東岸沖の青森湾~平館海峡付近に分布する活断層群
°栗田泰夫・村上文敏(産総研)・坂本 泉・滝野義幸(東海大海洋)
- 11:15 D21-09 2011年福島県浜通りの地震で活動した井戸沢断層のトレンチ掘削調査
°遠田晋次(京大防災研)・堤 浩之(京大理)・杉戸信彦(名大)・奥村晃史(広島大学)
Matthieu Ferry(モンペリエ大)・Mustapha Meghraoui(ストラスブルグ大)
森 良樹・小俣雅志・郡谷順英(クレアリア)・早瀬亮介(加速器分析研)
- 11:30 D21-10 神縄・国府津-松田断層帯の変動地形
°石山達也・佐藤比呂志(東大地震研)・東郷正美(法政大)
今泉俊文(東北大)・加藤直子(東大地震研)
- 11:45 D21-11 伊豆半島北東部沿岸の隆起痕跡が示す間欠的隆起
°宍倉正展・行谷佑一(産総研)・金子浩之(伊東市)・小山真人(静岡大)
- 12:00 D21-12 郷村断層帯海域延長部に分布する断層の活動性について
°阿部信太郎(産総研)・山本博文(福井大)・荒井良祐(川崎地質)・岡村行信(産総研)

10月18日(木) 13:15～15:00 A会場

地震一般・その他,
大地震の発生に至る過程の多様性の理解とモデル化
—何を調べればどこまで予測可能となるのか?—

(講演時間 12分・質疑応答 3分)

座長 澤崎 郁・山中佳子

地震一般・その他

- 13:15 A22-01 震源カタログの一部再評価
°石川有三(産総研活断層セ)
- 13:30 A22-02 北海道で発生する千島前弧スリバーの運動に伴う小地震群の断層面解の分布
°平塚晋也(弘前大理工)・菅原 宗(地科研)・佐藤魂夫(弘前大理工)・今西和俊(産総研)
- 13:45 A22-03 2011年東北地方太平洋沖地震後の地盤浅部におけるP波およびS波速度変化
—多孔質媒質に基づく解釈—
°澤崎 郁(防災科研)・Roel K. Snieder(コロラド鉱山大)
- 14:00 A22-04 地震記録による地すべりモニタリング—2011年紀伊半島の深層崩壊の運動像—
°山田真澄(京大防災研)・熊谷博之(防災科研)・松澤孝紀(防災科研)・松四雄騎(京大防災研)
- 大地震の発生に至る過程の多様性の理解とモデル化—何を調べればどこまで予測可能となるのか?—
- 14:15 A22-05* 2011年東北地方太平洋沖地震が地震発生予測研究に与えた教訓
°松澤 暢(東北大理予知セ)
- 14:30 A22-06 東北地方太平洋沖地震の震源過程から見えた課題
°山中佳子(名大環境)
- 14:45 A22-07 地震スーパーサイクル末期のバックスリップの移動と弱まり
°瀨瀬一起・横田裕輔・加藤尚之・加藤照之(東大地震研)

10月18日(木) 15:15～17:00 A会場

大地震の発生に至る過程の多様性の理解とモデル化
—何を調べればどこまで予測可能となるのか?—

(講演時間 12分・質疑応答 3分)

座長 James Mori・行谷佑一

- 15:15 A22-08 Japan Trench Fast Drilling Project (JFAST) : Studying Large Slip of the Tohoku Earthquake with Ocean Boreholes
° J. Mori (DPRI, Kyoto Univ.), F. Chester (Texas A&M Univ.)
N. Eguchi, S. Toczko, S. Kodaira (JAMSTEC), Expedition 343 Scientists
- 15:30 A22-09 2011年東北地方太平洋沖地震(Mw9.0)の超大すべり域を囲む長期的地震活動のパターン
°佐藤魂夫・平塚晋也(弘大理工)・Jim Mori(京大防災研)
- 15:45 A22-10 F-netメカニズム解を用いたプレートの境界深部での東北地方太平洋沖地震本震時すべり分布の拘束
°千葉慶太・飯尾能久・深畑幸俊(京大防災研)

*は招待講演

- 16:00 A22-11 M9 クラス巨大地震のすべり量分布とスケーリング
 °室谷智子・佐竹健治（東大地震研）・藤井雄士郎（建築研）
- 16:15 A22-12 津波波形からみた 2011 年東北地方太平洋沖地震のすべりの時空間分布
 - 貞観型プレート間地震が津波地震を誘発した可能性 -
 °佐竹健治（東大地震研）・藤井雄士郎（建築研）
 原田智也（東大地震研）・行谷佑一（産総研）
- 16:30 A22-13 津波堆積物の分布と計算浸水域から検討した貞観地震のマグニチュードの再評価
 °行谷佑一（産総研）・佐竹健治（東大地震研）
- 16:45 A22-14 太平洋プレート北西境界の大地震の発生時期および地殻変動に見られる約 9 年周期の変動とその
 起源についての考察
 °田中愛幸（東大地震研）

10 月 18 日（木） 13:15 ~ 17:00 B 会場

強震動・地震災害

（講演時間 12 分・質疑応答 3 分）

座長 吉田邦一・高井伸雄・岩城麻子・中村武史

- 13:15 B22-01 海溝型巨大地震の強震動予測レシピの考え方 - 2011 年東北地震の短周期震源モデルに学ぶ -
 °入倉孝次郎・倉橋 奨（愛工大）
- 13:30 B22-02 東北地方太平洋沖地震の強震動放出位置の推定
 °友澤裕介・池浦友則・引田智樹（鹿島技研）・岡崎 敦（関西電力）
- 13:45 B22-03 強震動による震源モデルから求めた 2011 年東北地方太平洋沖地震の震源の動力学パラメータ
 °吉田邦一・宮腰 研（地盤研）・入倉孝次郎（愛工大）
- 14:00 B22-04 2011 年東北地方太平洋沖地震の特性化震源モデルの構築
 °川辺秀憲・釜江克宏（京大原子炉）
- 14:15 B22-05 2011 年東北地方太平洋沖地震の強震記録を含む硬質岩盤上のデータベースに基づく応答スペクトル
 距離減衰式の開発
 °司 宏俊（構造計画研）・翠川三郎（東工大）・堤 英明
 呉 長江（JNES）・正月俊行・野田朱美（構造計画研）
- 14:30 B22-06 2012 年 3 月 14 日三陸沖アウターライズ地震による短周期地震動の励起特性と距離減衰特性
 °高井伸雄（北大工）・前田宜浩（防災科研）・笹谷 努（北大工）
- 14:45 B22-07 東北地方のスラブ内地震、アウターライズ地震、プレート境界地震の短周期レベルと f_{max} 及び Q 値
 °佐藤智美（清水建設）
- 15:00 休憩
- 15:15 B22-08 関東地方における低周波数地震動の情報を用いた高周波数地震動の合成手法の検討
 °岩城麻子・藤原広行（防災科研）
- 15:30 B22-09 複雑な伝播経路特性を考慮した関東地域における地震の震源特性の検討
 °田島礼子・司 宏俊（構造計画）・森川信之・藤原広行・岩城麻子（防災科研）
 山口 亮（損害保険料率算出機構）
- 15:45 B22-10 海溝型地震の強震動生成域における相似則
 °横田 崇・上野 寛（気象研）・下山利浩・元山知範（内閣府）
 増田 徹・室谷智子（東大地震研）・甲斐田康弘（応用地質）

- 16:00 B22-11 海溝型地震の分岐断層破壊シナリオで発生する津波の特徴
 °後藤浩之（京大防災研）・奥村与志弘（京大工）
- 16:15 B22-12 南海トラフ巨大地震の断層パラメータの違いが強震動予測結果に与える影響
 °渡辺莉奈（名大環）・宮腰淳一・護 雅史・福和伸夫（名大減災セ）
- 16:30 B22-13 海底地震観測網で観測された地震動の3次元波動伝播シミュレーションによる再現
 - 構造モデルにおける海水層の導入の重要性
 °中村武史（JAMSTEC）・竹中博士（九大）・岡元太郎（東工大）・金田義行（JAMSTEC）
- 16:45 B22-14 少ない数のパラメータで記述された海溝型巨大地震の新しい震源モデルの提案
 °野津 厚（港湾空港技研）

10月18日（木）13:15～17:00 C会場

地殻変動・GPS・重力

（講演時間12分・質疑応答3分）

座長 佐藤まりこ・渡邊俊一・橋本 学・板場智史

- 13:15 C22-01 東北地方太平洋沖地震前の海底地殻変動とプレート間の固着状態
 °佐藤まりこ・石川直史・氏原直人・渡邊俊一・藤田雅之（海洋情報部）
 望月将志・浅田 昭（東大生産研）
- 13:30 C22-02 2011年東北地方太平洋沖地震後の海底地殻変動
 °石川直史・佐藤まりこ・氏原直人・渡邊俊一（海洋情報部）
 望月将志・浅田 昭（東大生産研）
- 13:45 C22-03 熊野灘・駿河湾における海底地殻変動観測
 °田所敬一・安田健二・渡部 豪・永井 悟
 坂田 剛・奥田 隆（名大）・生田領野（静大理）
- 14:00 C22-04 南海トラフにおける海底地殻変動観測
 °氏原直人・石川直史・渡邊俊一・佐藤まりこ（海洋情報部）
 望月将志・浅田 昭（東大生産研）
- 14:15 C22-05 海底地殻変動データを用いた断層すべり分布モデルの導出に向けた取り組み
 °渡邊俊一・石川直史・氏原直人・佐藤まりこ・矢吹哲一郎（海洋情報部）
- 14:30 C22-06 南海前弧スリバーのブロック運動と中央構造線における固着・すべり分布
 °一谷祥瑞・田部井隆雄（高知大理）
- 14:45 C22-07 GNSS地殻変動データから推定される千島海溝沿いのプレート間カップリング
 °西村卓也（地理院）
- 15:00 休憩
- 15:15 C22-08 GPS稠密観測から推測される日本海東縁歪み集中帯の変形様式
 °鷺谷 威（名大減災セ）・歪み集中帯GPS観測グループ
- 15:30 C22-09 「だいち」合成開口レーダーで見た京都盆地と大阪平野の地盤変動
 °橋本 学（京大防災研）
- 15:45 C22-10 愛知県周辺での短期的SSEの規模の空間分布
 °北川有一・武田直人・今西和俊・板場智史（産総研活断層セ）
- 16:00 C22-11 GEONETデータによる西南日本の固着分布と短期的スロースリップの連続モニタリング
 °藤田明男（静大院理）・生田領野・里村幹夫（静大理）
 島田誠一（防災科研）・加藤照之（東大地震研）

- 16:15 C22-12 歪計冗長成分を用いた短期的 SSE の客観検出
 °板場智史 (産総研)・木村武志 (防災科研)
- 16:30 C22-13 ひずみ計を用いた Mw 即時推定手法の開発 (その2)
 °眞城亮成・高橋浩晃 (北大地震火山セ)
- 16:45 C22-14 Exploratory analysis of earthquake precursory information in GPS measurements
 ° Ting Wang (Univ. Otago), Jiancang Zhuang (ISM), Teruyuki Kato (ERI, Univ. Tokyo)

10月18日(木) 13:15～15:00 D会場

地震の理論・解析法

(講演時間 12分・質疑応答 3分)

座長 豊国源知・河原 純

- 13:15 D22-01 Handling by Solitary Wave and Soliton of Earthquake Motion
 °西澤 勝
- 13:30 D22-02 震源決定における重み付き最小二乗法の誤用について
 °井元政二郎 (防災科研)
- 13:45 D22-03 モーメントテンソル点震源を用いた準円筒座標系 2.5次元波動モデリング
 °豊国源知 (東北大理予知観)・竹中博士 (九大理)・岡元太郎 (東工大理工)
 趙 大鵬・伊藤喜宏・長谷川 昭 (東北大理予知観)
- 14:00 D22-04 減衰性媒質における SPAC 法の定式化
 °中原 恒 (東北大)
- 14:15 D22-05 地震基盤構造の推定法としての地震波干渉法とケプストラム法の比較
 石隈大夢・°河原 純・宮下 芳 (茨城大)・平田 直・酒井慎一 (東大地震研)
- 14:30 D22-06 P波振動方向を用いた動的誘発地震の検出
 °内出崇彦 (京大防災研)
- 14:45 D22-07 1960年チリ巨大地震自由振動スペクトル再解析
 °綿田辰吾 (東大地震研)

10月18日(木) 15:15～17:00 D会場

地球及び惑星の深部構造と物性

(講演時間 12分・質疑応答 3分)

座長 河合研志・入谷良平

- 15:15 D22-08 実体波を用いた3次元波形インバージョン法の開発および中米下最下部マンテルの3次元詳細構造
 °河合研志 (UCSB/東工大)・小西健介・ゲラー ロバート (東大)・富士延章 (IPGP)
- 15:30 D22-09 海底地震計記録の地震波干渉法解析によるマンテル最上部の異方性推定
 °竹尾明子 (東大地震研)・Donald Forsyth (Brown Univ.)・西田 究・一瀬建日
 川勝 均・塩原 肇 (東大地震研)・末次大輔・杉岡裕子・伊藤亜妃 (JAMSTEC)
 Dayanthie Weeraratne (CSUN)・金沢敏彦 (防災科研)

- 15:45 D22-10 西南日本下のフィリピン海スラブは深さ 460 km まで沈み込んでいる
 °趙 大鵬・黄 周伝・築田高広・長谷川 昭・海野徳仁（東北大理）
 J.H. Park・I.B. Kang（地球科学と鉱物資源局，韓国）
- 16:00 D22-11 遠地実体波を用いたオントンジャワ海台下の上部マントル減衰構造の推定
 °末次大輔・志藤あずさ（JAMSTEC）
- 16:15 D22-12 グローバルアレイデータを用いた内核東西半球不均質減衰・速度構造の深さ依存性の推定
 °入谷良平・竹内 希・川勝 均（東大地震研）
- 16:30 D22-13 ScS 多重反射波のトモグラフィー解析による不連続面のマッピング
 °竹内 希（東大地震研）・NECESSArray プロジェクトチーム
- 16:45 D22-14 Hinet で観測された PKiKP/PcP 振幅比の周波数依存性
 °田中 聡（IFREE, JAMSTEC）・Hrvoje Tkalčić（RSES, ANU）

10月19日（金）9:00～12:30 A会場

大地震の発生に至る過程の多様性の理解とモデル化

－何を調べればどこまで予測可能となるのか？－

（講演時間 12 分・質疑応答 3 分）

座長 木戸元之・野田博之・有吉慶介・兵藤 守

- 9:00 A31-01 Testing significance of earthquake precursors against earthquake clustering models
 °庄 建倉（統数研）
- 9:15 A31-02 海溝型巨大地震の新しい長期評価方法の一提案
 °石井 透（清水建設）
- 9:30 A31-03 新しいプレート境界モデルに向けた海底地震地殻変動モニタリング観測研究と技術開発
 °篠原雅尚・塩原 肇・望月公廣・山田知朗・一瀬建日（東大地震研）・村井芳夫（北大）
 日野亮太・藤本博己・木戸元之・伊藤喜宏（東北大）・佐藤利典（千葉大）
 清水 洋（九大）・八木原 寛（鹿大）・酒井慎一・小原一成・平田 直（東大地震研）
- 9:45 A31-04 日本海溝沿いの海底 GPS 観測点の強化と観測の展望
 °木戸元之・藤本博己（東北大災害研）・田所敬一（名大環境）
- 10:00 A31-05 0.1 万点（満点）計画 －次世代型稠密地震観測－
 満点計画グループ（発表者 °飯尾能久（京大防災研））
- 10:15 A31-06* プレート境界すべりのアンサンブル予測にもとづくプレート境界地震発生予測システムの構築
 °堀 高峰（JAMSTEC）・宮崎真一（京大理）・兵藤 守・中田令子・金田義行（JAMSTEC）
- 10:30 A31-07 速度・状態依存摩擦則で支配される断層における階層アスペリティの地震サイクルシミュレーション
 °野田博之（JAMSTEC）・中谷正生（東大地震研）・堀 高峰（JAMSTEC）
- 10:45 休憩
- 11:00 A31-08 巨大地震発生における高速摩擦の役割と課題
 °芝崎文一郎（建築研）・嶋本利彦（中国地震局）・堤 昭人（京大）
- 11:15 A31-09 海溝型巨大地震の発生過程と浅部ゆっくり地震の活動変化との関係
 °有吉慶介・堀 高峰・中田令子・金田義行（JAMSTEC）
 松澤 暢・日野亮太・長谷川 昭（東北大理予知セ）
- 11:30 A31-10 M9 地震サイクルによる東北地方の長期的東西圧縮モデル
 °橋間昭徳（東大地震研）・佐藤利典（千葉大理）

*は招待講演

- 11:45 A31-11 地震発生予測システムのためのシミュレーションデータベース
 °兵藤 守・中田令子・堀 高峰・金田義行 (JAMSTEC)
- 12:00 A31-12 新しい日本列島基本構造・物性値モデルの構築
 °佐藤比呂志・岩崎貴哉 (東大地震研)
- 12:15 A31-13 高詳細な三次元地殻モデルを用いた地殻変形解析手法の開発とその西南日本への適用
 °縣 亮一郎 (東大工)・市村 強 (東大地震研)・兵藤 守・堀 高峰 (JAMSTEC)
 平原和朗 (京大理)・堀 宗朗 (東大地震研)

10月19日(金) 9:00～12:30 B会場

強震動・地震災害

(講演時間12分・質疑応答3分)

座長 青井 真・藤原広行・飯田昌弘・増田 徹

- 9:00 B31-01 強震モニタと緊急地震速報のコラボレーション
 °青井 真・中村洋光・功刀 卓・鈴木 亘・藤原広行 (防災科研)
- 9:15 B31-02 実時間地震動予測 – データ同化と実時間サイト補正による時間発展型の予測 –
 °干場充之 (気象研)
- 9:30 B31-03 新たな地震動予測式の修正へ向けた課題
 °森川信之・藤原広行 (防災科研)
- 9:45 B31-04 「i地震」を用いたセンサー・クラウド構築の試み
 °藤原広行・東 宏樹・内藤昌平・先名重樹・中村洋光 (防災科研)
 吉田 稔・田中洋一・結城 昇 (白山工業)
- 10:00 B31-05 J-SHIS API を用いた被害不確定性実感アプリ「もしゆれ」の社会的反響
 °東 宏樹・藤原広行 (防災科研)・福本 壘 (ウイングベース)
 高階経啓・菅澤英司・古村 太
- 10:15 B31-06 2011年東北地方太平洋沖地震で何故死者が多かったか(第2報)
 – インタビュー調査に基づく一考察 –
 °石田瑞穂 (JAMSTEC)・安藤雅孝 (台湾中央研究院)
- 10:30 B31-07 2011年東日本大震災に伴う人間被害の激甚性(2) 既往地震群との対比でみる年令等依存性
 °太田 裕 (東濃地震科学研)
- 10:45 休憩
- 11:00 B31-08 入力地震波動場に基づく、3次元建物-地盤相互作用解析法(3)
 °飯田昌弘 (東大地震研)
- 11:15 B31-09 常時微動観測を用いた東日本大震災における被災建物のせん断波速度の評価
 °王 欣・入倉孝次郎・正木和明 (愛工大)
- 11:30 B31-10 震源スペクトルのスケーリング則に基づくプレート境界地震のMjとMoの関係式
 °加藤研一 (小堀鐸二研)・池浦友則 (鹿島技研)・武村雅之 (名大)・岡崎 敦 (関西電力)
- 11:45 B31-11 コーダ波と直達S波を用いたサイト増幅特性の評価と比較
 °竹本帝人 (東大地震研)・古村孝志 (東大情報学環)・前田拓人 (東大地震研)
- 12:00 B31-12 強震動予測のためのグリーン関数法の改良
 °増田 徹 (東大地震研)

- 12:15 B31-13 中央アンデス・ペルーの超巨大地震の破壊シナリオおよびリマ市の強震動予測
 °プリード ネルソン (防災科研)・エルナンド タベラ (ペルー地球物理庁)
 ディアナ カルデロン・セノン アギラール (ペルー国立工科大)
 モハメッド シリエー (ソフィア・アンティポリー大)
 関口 徹・中井正一・山崎文雄 (千葉大)

10月19日(金) 9:00～12:30 C会場

地震活動

(講演時間 12分・質疑応答 3分)

座長 行竹洋平・石辺岳男・出原光暉・土井一生

- 9:00 C31-01 平成23年東北地方太平洋沖地震発生後の小繰り返し地震活動
 °五十嵐俊博 (東大地震研)
- 9:15 C31-02 2011年東北地方太平洋沖地震に伴う海溝陸側斜面の余震活動
 °尾鼻浩一郎・杉岡裕子・伊藤亜妃・中村恭之・三浦誠一・野 徹雄・小平秀一
 高橋成実 (JAMSTEC)・篠原雅尚・山田知朗・塩原 肇・中東和夫 (東大地震研)
 植平賢司 (九大, 現・防災科研)・日野亮太 (東北大)
- 9:30 C31-03 東北地方太平洋沖地震の発生後に活発化した霞ヶ浦南部の地殻内地震
 °今西和俊・武田直人・桑原保人 (産総研)
- 9:45 C31-04 東北地方太平洋沖地震の表面波通過時の箱根火山における地震活動と動的応力変化との関係
 °行竹洋平・本多 亮・原田昌武・伊東 博・吉田明夫 (神奈川温地研)
 宮澤理稔 (京大防災研)・坂上 実・瀧瀬一起 (東大地震研)
- 10:00 C31-05 長野県北部の地震 (M5.2) の余震活動
 °酒井慎一・小原一成・岩崎貴哉 (東大地震研)
- 10:15 C31-06 2011年東北地方太平洋沖地震による関東地方における地震活動度変化
 °石辺岳男・酒井慎一・島崎邦彦・佐竹健治・鶴岡 弘・中川茂樹・平田 直 (東大地震研)
- 10:30 C31-07 東北沖地震の誘発地震活動の非定常 ETAS モデルによる解析
 °熊澤貴雄・尾形良彦 (統数研)
- 10:45 休憩
- 11:00 C31-08 1990年代の広帯域地震観測記録からみた千島海溝-日本海溝会合部付近の超低周波地震活動
 °浅野陽一 (防災科研)・岡田知己・中山貴史・伊藤喜宏・堀 修一郎・河野俊夫
 松澤 暢・海野徳仁 (東北大)・伊東明彦 (宇都宮大)・小原一成 (東大地震研)
- 11:15 C31-09 非火山性微動の活動様式の地域性: フラクタル解析からのアプローチ
 °出原光暉・井出 哲 (東大理)
- 11:30 C31-10 四国地域における深部非火山性微動の振幅頻度分布の空間的変動
 °岸本 剛・須田直樹 (広島大理)
- 11:45 C31-11 紀伊半島北西部における定常地震活動と地質構造の関係
 °前田純伶・遠田晋次 (京大防災研)
- 12:00 C31-12 2008年岩手・宮城内陸地震における加速を伴わない前震活動
 °土井一生・川方裕則 (立命館大理工)
- 12:15 C31-13 超巨大地震 (Mw>8.5) の最大余震
 °小山順二・都筑基博 (北大理)

10月19日(金) 9:00～10:45 D会場

岩石実験・地殻応力

(講演時間 12分・質疑応答 3分)

座長 福山英一・増田幸治

- 9:00 D31-01 大型振動台を用いた大型2軸摩擦実験
°福山英一(防災科研)・溝口一生(電中研/防災科研)・山下 太・東郷徹宏(防災科研)
川方裕則(立命館/防災科研)・吉光奈奈(立命館)・嶋本利彦(中国国家地震局)
御子柴 正(防災科研)・佐藤 誠(AES/防災科研)・箕輪親宏(防災科研)
- 9:15 D31-02 大型試料のせん断すべり時における透過弾性波の特徴
°川方裕則(立命館大/防災科研)・吉光奈奈(立命館大)・福山英一(防災科研)
溝口一生(電中研/防災科研)・山下 太・東郷徹宏(防災科研)
佐藤 誠(AES)・土井一生(立命館大)
- 9:30 D31-03 三軸圧縮応力下の岩石のAE活動に及ぼす封圧の周期的微小変動の影響
-人工的な亀裂を持つ花崗岩試料を用いた実験-
°佐藤隆司・雷 興林(産総研)
- 9:45 D31-04 P波, S波速度変化から推定した岩石試料内部のクラック形状と飽和度の変化
°増田幸治(産総研)・西澤 修(RITE)
- 10:00 D31-05 中央構造線安康地域における断層ガウジでの流体-岩石相互作用と摩擦特性
°松多範子(大阪大)・石川剛志(JAMSTEC)・藤本光一郎(東京学芸大)・亀田 純(東大)
河本和朗(中央構造線博物館)・西尾嘉朗(JAMSTEC)・廣野哲朗(大阪大)
- 10:15 D31-06 台湾チェルンブ断層における炭質物のラマン分光分析
°前川由佳・藪田ひかる・廣野哲朗(大阪大)・谷川 亘(JAMSTEC 高知)
- 10:30 D31-07 断層ガウジで粒子サイズに関する偏析が発生する条件
°伊藤 諒・波多野恭弘(東大地震研)・桑野 修(JAMSTEC)

10月19日(金) 11:00～12:30 D会場

地震教育・地震学史

(講演時間 12分・質疑応答 3分)

座長 大木聖子・林 能成

- 11:00 D31-08 知識の獲得・防災意識の高揚・防災行動の関連性
°大木聖子(東大地震研)・中谷内一也(同志社大学)
- 11:15 D31-09 草の根の防災教育について -防災キャリア教育の提唱-
°木村正彦(愛知県技術士会)
- 11:30 D31-10 教員サマースクール2012及び教員免許状更新講習「地震・津波を学校でどう教えるか
～三陸地方の地球科学的特徴と理科教育～」報告
°南島正重(両国高)・中島 健(天津清陵高)・数越達也(神戸高)
伊東明彦(宇都宮大教育)・荒井賢一(栄東高)・中川和之(時事通信社)
伊藤英之(岩手県立大)・越谷 信(岩手大工)・草野 悟(KPO)
末永正志(釜石市)・岩崎昭子(宝来館)

- 11:45 D31-11 (公社) 日本地震学会が主催する教員免許状更新講習の意義
 °伊東明彦 (宇都宮大)・根本泰雄 (桜美林大)・岡本義雄 (大阪教育大)
 南島正重 (都立両国高)・数越達也 (兵庫県立神戸高)・荒井賢一 (栄東高)
 中島 健 (滋賀県立大津清陵高)・美澤綾子 (静岡県立静岡高)
- 12:00 D31-12 東日本大震災後に高等学校「地学」教員採用状況は変化したのか?
 °根本泰雄 (桜美林大自然)
- 12:15 D31-13 津波地震からの避難過程の調査と教材化～2010年インドネシア・メンタワイ地震～
 °林 能成 (関西大社会安全)・Munasri (LIPI, Indonesia)
 中村 衛 (琉球大理)・Didik Sugiyanto (Unsyiah, Indonesia)

10月19日(金) 14:45～15:45 A会場

大地震の発生に至る過程の多様性の理解とモデル化

－何を調べればどこまで予測可能となるのか?－

(講演時間12分・質疑応答3分)

座長 飯高 隆・小笠原 宏

- 14:45 A32-01 内陸地震発生メカニズムの解明に向けて
 °飯高 隆 (東大地震研)・内陸地震研究グループ
- 15:00 A32-02 誘発された地震活動の予測と適応的解析
 °尾形良彦 (統数研)
- 15:15 A32-03 地震発生場においてより多くの応力測定を実現するための南アフリカ金鉱山での取り組み
 °小笠原 宏 (立命館大)・加藤春實 (明間ポーリング)
- 15:30 A32-04 2009年駿河湾地震(M6.5)直前のひずみ変化
 °高波鐵夫・平田 直 (東大地震研)・北川源四郎 (情報シス機構)
 上垣内 修 (気象庁)・Alan T. Linde・Selwyn I. Sacks (カーネギー研)

10月19日(金) 14:45～15:45 B会場

強震動・地震災害

(講演時間12分・質疑応答3分)

座長 村上 亮・若井 淳

- 14:45 B32-01 活断層の直上以外でも発生しうる地面の食い違い変位
 －強震動による大規模土塊移動発生メカニズム－
 °村上 亮・奥山 哲 (北大地火セ)・古屋正人・阿部隆博 (北大理)
- 15:00 B32-02 地殻変動と長周期地震動および大規模構造物の耐震問題
 °太田外氣晴 (足利工大)・松枝富士雄 (橋梁コンサル)
- 15:15 B32-03 地震発生位置が地震動のフーリエ位相特性に及ぼす影響
 °若井 淳・野津 厚 (港湾空港技研)
- 15:30 B32-04 南西諸島における地震動シミュレーションのための三次元地下構造モデルの構築
 °藤岡 慧・竹中博士 (九州大)・山田伸之 (福岡教育大)・中村武史 (JAMSTEC)
 岡元太郎 (東京工業大)・村越 匠 (防衛大)・藤原広行 (防災科研)

10月19日(金) 14:45～15:45 C会場

地震活動

(講演時間12分・質疑応答3分)

座長 高田陽一郎・宮下 芳

- 14:45 C32-01 跡津川断層周辺で発生する微小地震のメカニズム解：三次元分布とその特徴
°高田陽一郎(京大防災研)・勝俣 啓(北大地震セ)・片尾 浩(京大防災研)
小菅正裕(弘前大理工)・飯尾能久(京大防災研)・鷺谷 威(名大減災連携セ)
歪集中帯大学合同地震観測グループ
- 15:00 C32-02 1964年新潟地震の断層面 -改良連携震源決定法とグリッドサーチ法の併用-
°古川信雄(建築研)・原田智也(東大地震研)
- 15:15 C32-03 松代群発地震の最盛期の活動に関する再解釈
°浜田信生(JNES)・野坂大輔(気象庁松代)・小林正志
石垣祐三・田利信二郎(気象庁)・吉川一光(大阪管区气象台)
- 15:30 C32-04 小～中規模地震に関する M_w と M_j の比較
川村咲貴恵・°宮下 芳・河原 純(茨城大)・松林弘智((株)ANET)

10月17日(水) 17:00～18:30 ポスター会場

ポスターセッション (P1-01～P1-79)

地震計測・処理システム

- P1-01 長周期 back-projection 法等を用いた即時的大すべり域推定
°勝間田明男(気象研究所)
- P1-02 隠れマルコフモデルを用いた地震波形の自動処理法
°小寺祐貴・酒井慎一(東大地震研)
- P1-03 WIN ファイル読み込みの FORTRAN サブルーチンの開発 - 首都圏下の散乱体分布推定に向けて -
°中川茂樹・酒井慎一・鶴岡 弘・卜部 卓・加藤愛太郎・蔵下英司・小原一成(東大地震研)
本多 亮・宮岡一樹(神奈川県温地研)・木村尚紀(防災科研)
笠原敬司(地震予知振興会)・平田 直(東大地震研)
- P1-04 GPGPU 超並列信号処理による相似地震解析の高速化
°川上大喜・大久保 寛(首都大システザ)・内田直樹・竹内伸直・松澤 暢(東北大理)
- P1-05 大量展開型の次世代海底地震計の開発
°清水 賢・木村忠勝・前川拓也(日本海洋事業)・渡邊佳孝・高橋成実・畠山 清
- P1-06 Full state feedback sensor
°木下繁夫(東京測振)
- P1-07 Hi-net 地震計特性の時間変化
°上野友岳・齊藤竜彦・汐見勝彦(防災科研)・針生義勝(防災科研/地震予知振興会)
- P1-08 防災科研 Hi-net 地中地震計設置方位情報推定方法の改訂
°汐見勝彦(防災科研)

テクトニクス

- P1-09 フィリピン海プレート内で発生した岐阜県美濃東部の地震 (M5.6) の発生メカニズム
°雑賀 敦・大久保慎人(東濃地震科研)

- P1-10 日本列島太平洋側海溝型巨大地震と地震間固着がアジア北東域のテクトニクスに与える影響
 °高橋浩晃・大園真子（北大理）・中尾 茂（鹿大理）・N. シェスタコフ
 M. ゲラシメンコ（ロシア応用数学研）・N. ワシレンコ・A. プリトコフ（ロシア海洋地質地物研）
 V. ブイコフ・M. ルネバ（ロシアテクトニクス地物研）・E. ゴルディエフ（ロシア火山地震研）
- P1-11 環太平洋地域の沈み込み帯におけるプレートの斜め沈み込み方向とその地域で発生する逆断層型地震のすべり方向のずれ
 °片山直子（神戸大理）・吉岡祥一（神戸大都市安全セ／理）

地殻構造

- P1-12 Multiple Lapse Time Window Analysis using Focal Mechanism
 °鄭 泰雄（世宗大, 韓国）・吉本和生（横浜市大）
- P1-13 弾性波アクロスを用いた地震波速度モニタリングの試み
 °横山一史・川方裕則・土井一生（立命館大）・大久保慎人・雑賀 敦（東濃地震科研）
- P1-14 Hi-net で観測された土岐からの弾性波アクロス信号の走時変化
 °國友孝洋（名大院環境）
- P1-15 孔井内物理検層による地下深部岩盤物性－防災科学技術研究所による陸上深層掘削の例－
 °小村健太郎（防災科研）・松田達生（リアルタイム地震情報利用協議会）
 山田隆二（防災科研）・池田隆司（北大）
- P1-16 コーダ波を用いた坑道検出の試み－南アフリカ Ezulwini 金鉱山観測サイト－
 °今川祥太・川方裕則・土井一生・吉光奈奈・村上 理（立命館大）
 中谷正生・直井 誠（東大）・Joachim Philipp (GMuG)・Tony Ward・Gilbert Morema (Seismogen)
 Vlok Visser・Sifiso Khambule・Thabang Masakale (OHMS)・Alex Milev・Ray Durrheim (CSIR)
 Luiz Ribeiro (First Uranium)・Mike Ward (Seismogen)・小笠原 宏（立命館大）
- P1-17 反射波走時を用いた北美濃地域の地震波速度構造の推定
 °江元智子・津村紀子（千葉大）・古屋 裕（伊藤忠石油開発）・濃尾合同観測グループ
- P1-18 濃尾断層帯周辺における coda Q と地震波干渉法から得られた減衰率の推定
 °辻 清根・平松良浩（金沢大学）・濃尾断層帯合同観測グループ
- P1-19 重力異常に基づく能登半島北部の基盤構造
 °水林 侑・澤田明宏・浜田昌明・平松良浩（金沢大）・本多 亮（東濃地震科研）
- P1-20 能登半島南部上部地殻の詳細な 3 次元密度構造と構造発達史
 °本多 亮（東濃地震研）・澤田明宏・平松良浩（金沢大学）・片川秀基（北陸電力）
 大村一夫（大和地質）・浜田昌明（北陸電力）・河野芳輝（金沢大学, 故人）
- P1-21 石狩低地東縁断層帯とその周辺における地震活動及び浅部地下構造
 °一柳昌義・高橋浩晃・高田真秀・山口照寛（北大地震セ）・前田宜浩（防災科研）
 本多 亮（東濃地震科研）・河野裕希（防災科研）
 岡山宗夫・橋本武志・青山 裕・笠原 稔（北大地震セ）
- P1-22 石狩低地東縁断層帯付近の 3 次元比抵抗構造からみるひずみ集中
 °山谷祐介（東大地震研）・茂木 透（北大理）・本多 亮（東濃地震科研）
 長谷英彰（東大地震研）・橋本武志（北大理）・上嶋 誠（東大地震研）
- P1-23 東北地方日本海東縁地域における常時微動トモグラフィ (2)
 °米川真紀・高木涼太・岡田知己（東北大理）
- P1-24 東北背弧ひずみ集中帯における広帯域 MT 観測
 °長谷英彰・相澤広記・菅野貴之・小山崇夫・山谷祐介・小河 勉・上嶋 誠（東大地震研）
 坂中伸也・西谷忠師・野尻丈道・大本将行・河野輝樹（秋田大工資源）
 市原 寛（JAMSTEC）・高倉伸一（産総研）・吉村令慧（京大防災研）

- P1-25 2008年岩手宮城内陸地震の震源域を縦断する深部反射法地震探査
 °青柳恭平(電中研)・阿部信太郎(産総研)・上田圭一・佐々木俊法(電中研)
 川崎慎治・野田克也・高橋明久(地科研)
- P1-26 東北地方における地殻内地震のS波偏向異方性の地域的特徴
 °飯高 隆・小原一成・五十嵐俊博(東大地震研)
- P1-27 2011年東北地方太平洋沖地震の大すべりに関与した東北日本弧前縁部のP波速度構造不均質
 °東 龍介(北大地震セ)・日野亮太・伊藤喜宏(東北大地震予セ)・望月公廣・高波鐵夫
 篠原雅尚(東大地震研)・村井芳夫(北大地震セ)・佐藤利典(千葉大)・植平賢司・金沢敏彦(防災科研)
- P1-28 東北地方太平洋沖地震の震源周辺で発生した地震のS波エンベロープ伸張
 °長谷川和也・日野亮太・伊藤喜宏・鈴木健介・海野徳仁(東北大理)
- P1-29 海底地震観測と陸上観測記録の統合解析による2011年東北地震震源域周辺の地震波速度構造
 °山本揚二郎・尾鼻浩一郎(JAMSTEC)・町田祐弥・中東和夫・篠原雅尚(東大地震研)
 鈴木健介・伊藤喜宏・日野亮太(東北大)・小平秀一・金田義行(JAMSTEC)
 村井芳夫(北大)・佐藤利典(千葉大)・植平賢司(防災科研)・八木原 寛(鹿大)
 平田賢治(気象研)・杉岡裕子・伊藤亜妃・末次大輔(JAMSTEC)
- P1-30 MCSデータによる房総三重会合点付近のプレート境界分布
 °三浦誠一・高橋成実・山下幹也・野 徹雄・藤江 剛・小平秀一(JAMSTEC)・小林励司(鹿児島大)
- P1-31 房総半島縦断地殻構造探査測線(房総2002)における地震波速度構造
 °中山貴隆・佐藤比呂志・岩崎貴哉・蔵下英司(東大地震研)・阿部 進(地科研)
- P1-32 低/高速度領域を分ける神縄・国府津-松田断層帯
 °松原 誠(防災科研)・小原一成(東大地震研)
- P1-33 銭洲海嶺周辺におけるマルチチャンネル反射法地震探査
 °山下幹也・尾鼻浩一郎・下村典生・柏瀬憲彦・仲西理子・高橋成実・小平秀一・金田義行(JAMSTEC)
- P1-34 レシーバ関数解析から推定された紀伊半島下のフィリピン海スラブ周辺の構造
 °今井基博・澁谷拓郎・中尾節郎(京大防災研)・平原和朗(京大理)
- P1-35 DONETデータを用いた地震波走時トモグラフィー
 °神谷眞一郎・中野 優・中村武史・高江洲盛史(JAMSTEC)
 大堀道広(福井大)・金田義行(JAMSTEC)
- P1-36 DONET記録を用いた付加体底部からの反射S波の検出-付加体内部のS波異方性構造の推定-
 °利根川貴志・深尾良夫・藤 亜希子・石原 靖・高橋成実(JAMSTEC)
- P1-37 琵琶湖西岸/花折断層南端付近で見られる深部反射波
 °片尾 浩・三浦 勉・飯尾能久(京大防災研)
- P1-38 中国・四国地方の三次元S波減衰構造
 °小松正直・小田 仁(岡大院自)
- P1-39 制御震源地殻構造探査による九州中央部の地殻構造
 °蔵下英司(東大地震研)・宮町宏樹(鹿大理)・大倉敬宏(京大理)
 片尾 浩(京大防災研)・松本 聡(九大地震火山セ)・岩崎貴哉・及川 純(東大地震研)
 植木真人・平原 聡(東北大理)・2011九州縦断探査グループ
- P1-40 地中観測網のS-wavevector レシーバ関数で見える九州の地殻及び最上部マンツルの地震学的構造
 °上田拓哉(九大)・村越 匠(防衛大)・竹中博士(九大)
- P1-41 レシーバ関数解析による南西琉球弧の地下構造
 °中村 衛(琉球大理)
- P1-42 再決定震源による南琉球弧のプレート形状と固着域の推定
 °新城安尚・中村 衛(琉球大理)
- P1-43 南西諸島海溝南部沈み込み帯における地震構造調査
 °藤岡ゆかり・金田謙太郎・及川光弘・堀内大嗣・西澤あずさ・矢吹哲一郎・加藤幸弘(海上保安庁)

- P1-44 南西諸島海溝（琉球海溝）南部、石垣島周辺海域の沈み込み構造
 °金田謙太郎・西澤あずさ・及川光弘・堀内大嗣・藤岡ゆかり（海上保安庁）
- P1-45 九州・パラオ海嶺と背弧海盆間の遷移域の地震学的構造
 °西澤あずさ・金田謙太郎・及川光弘・小原泰彦（海上保安庁）
- 地震発生の物理**
- P1-46 紀伊水道付近の深部低周波微動活動の様子
 °武田直人・今西和俊（産総研）
- P1-47 四国地域における微動発生と沈み込み形状を考慮した短期的・長期的スロースリップイベント発生挙動の数値モデリング
 °松澤孝紀（防災科研）・芝崎文一郎（建築研）・小原一成（東大地震研）・廣瀬 仁（神戸大）
- P1-48 世界の微動の多様性と不均質性 2: 台湾およびメキシコゲレロ地域
 °井出 哲・矢部 優・出原光暉（東大理）
- P1-49 Widespread Triggered Tremor in Japan Following the 2012 Mw8.6 Sumatra Earthquake
 ° Kevin Chao, Kazushige Obara (ERI, Univ. Tokyo)
- P1-50 南アフリカ金鉱山における微小破壊 ($-3.7 \leq M_w \leq 1.3$) の規模別頻度分布と採掘発破前後の b 値の安定性
 °直井 誠・中谷正生（東大地震研）・Joachim Philipp (GMuG)・堀内茂木（ホームサイスマメータ）
 大槻憲四郎（東北大）・Thabang Kgarume (CSIR)・Gilbert Morema (Seismogen)
 Sifiso Khambule・Thabang Masakale (OHMS)・宮川幸治・渡邊篤志（東大地震研）
 森谷祐一（東北大）・村上 理（立命館大）・矢部康男（東北大）・川方裕則・吉光奈奈（立命館大）
 Tony Ward (Seismogen)・Ray Durrheim (CSIR)・小笠原 宏（立命館大）
- P1-51 Thermal pressurization が分岐断層における動的破壊伝播に与える影響
 °浦田優美（防災科研）・Sébastien Hok (ENS)・福山英一（防災科研）・Raul Madariaga (ENS)
- P1-52 3次元スタガード格子差分法による自発的断層破壊と地震動のシミュレーション
 °金野圭祐（神戸大理）・吉岡祥一（神戸大都市安全セ/理）
- P1-53 動力学的破壊シミュレーションによる傾斜する断層の連動性の検討
 °加瀬祐子（産総研）
- P1-54 地震時すべりに基づく断層破壊の動的パラメータの推定手法の開発
 °加納将行（京大理）・後藤浩之（京大防災研）・宮崎真一（京大理）
- P1-55 地中記録の地震波形を用いたバックプロジェクション法の解析
 °西澤 航・村越 匠（防衛大）
- P1-56 Hybrid back-projection 法による震源イメージング
 °八木勇治（筑波大）
- P1-57 2012 スマトラ北部西方沖地震 (Mw8.6) における地震波エネルギーの推定
 °木内亮太・Mori James（京大防災研）
- P1-58 2012年1月下旬に起きた富士山下の群発地震活動：応力降下量と震源の移動
 °山田卓司（北大理地震火山セ）
- P1-59 アスペリティと応力降下量の関係：2007年能登半島地震の場合
 °浦野 駿・平松良浩（金沢大）・山田卓司（北大）・2007年能登半島地震合同余震観測グループ
- P1-60 日本海溝南部周辺で20世紀に発生した大地震の再検討
 °室谷智子・佐竹健治（東大地震研）・山中佳子（名大環境）
- P1-61 東北地方太平洋沖地震後の宮城県気仙沼市沖 M6 クラスの繰り返し地震
 岩切一宏・溜瀧功史・°川添安之・中村雅基（気象庁）
- P1-62 2011年東北地方太平洋沖地震の破壊過程における周波数依存性
 °三宅弘恵（東大地震研）
- P1-63 2011年東北地震の長・短周期地震波パルスの同定および沈み込み帯構造を用いたそれらの発生源の決定
 °樋口 駿・瀨瀬一起・三宅弘恵（東大地震研）

- P1-64 東北地方太平洋沖地震における高周波地震波の輻射過程と主要すべりとの関係 (その2)
 °熊谷博之・Nelson Pulido・福山英一・青井 真 (防災科研)
- P1-65 Thermal pressurization を考慮した東北地方太平洋沖地震の3次元準動的発生サイクルモデル
 –アスペリティサイズの効果
 °芝崎文一郎 (建築研)・野田博之 (JAMSTEC)・嶋本利彦 (中国地震局)・堀 高峰 (JAMSTEC)
- P1-66 漸化型メモリ変数法を用いた粘弾性媒質における地震発生サイクルシミュレーション
 °平原和朗・大谷真紀子・鹿倉洋介 (京大理)・兵藤 守・堀 高峰 (JAMSTEC)・橋間昭徳 (東大地震研)
- P1-67 昭和東南海・南海地震後のプレート間固着分布を考慮した西南日本内陸活断層のクーロン破壊関数の長期変化
 °鹿倉洋介 (京大理)・深畑幸俊 (京大防災研)・平原和朗 (京大理)

地震予知

- P1-68 大地震前に現れる G-R 則からの逸脱について～その2～
 °弘瀬冬樹・前田賢二 (気象研)
- P1-69 相似地震予測 (2006～10年) の検証・評価
 °岡田正実 (気象研)・内田直希 (東北大)・青木重樹 (気象研)

津波

- P1-70 遠地津波の観測波形と弾性-流体地球に基づく理論波形の位相速度の比較
 °楠本 聡・綿田辰吾・佐竹健治 (東京大学地震研究所)
- P1-71 震源域直上の自己浮上式海底水圧計の津波記録からみた2011年東北地方太平洋沖地震の津波波源
 °対馬弘晃 (気象研)・日野亮太・長田幸仁 (東北大)・稲津大祐 (防災科研)
 伊藤喜宏・鈴木秀市・飯沼卓史・太田雄策・木戸元之・久保田達矢・藤本博己 (東北大)
 酒井慎一・篠原雅尚 (東大)・金沢敏彦 (防災科研)
- P1-72 2011年東北地方太平洋沖地震における津波波源の分散性を考慮した検討
 °大石裕介 (欧州富士通研)・浜野洋三・市原 寛・多田訓子 (JAMSTEC)・前田拓人 (東大地震研)
 古村孝志 (東大総合防災情報セ/地震研)・酒井慎一・篠原雅尚 (東大地震研)
- P1-73 東北地方太平洋沖地震震源域で2011年7月10日に発生したスラブ内地震 (Mw7.0) に伴う津波とその波源
 °久保田達矢・日野亮太 (東北大理)・稲津大祐・斎藤竜彦 (防災科研)
 飯沼卓史 (東北大災害研)・鈴木秀市・太田雄策・伊藤喜宏・鈴木健介 (東北大理)
- P1-74 震源断層面の形状を考慮した津波インバージョン解析
 °藤原 了・是永真理子・田宮貴洋・秋山伸一 (伊藤忠テクノソリューションズ (株))
- P1-75 市街地における実用的な津波氾濫解析手法の提案
 °今井健太郎 (東北大災害研)・今村文彦 (東北大災害研)・岩間俊二 (防災技術コンサルタント)
- P1-76 三次元建物データを用いた2011年東北地方太平洋沖地震による仙台港周辺の津波浸水計算
 °馬場俊孝・高橋成実・金田義行・稲澤保行・吉高神真利子 (国土地理院)
- P1-77 底面抵抗の評価方法による津波浸水域予測の変化に関して
 °大家義登 (明治大先端数理)・中村和幸 (明治大先端数理)
- P1-78 宮古島諸島における津波堆積物調査
 °新城安尚・中村 衛・志賀翔太・具志川千秋 (琉球大理)
 安藤雅孝・Yoko Tu (台湾中央研究院)・宍倉正展 (産総研活断層セ)
- P1-79 北海道東方沖で発生した17世紀巨大地震の津波
 °伊尾木圭衣・谷岡勇市郎 (北大)

10月18日 (木) 17:00～18:30 ポスター会場

ポスターセッション (P2-01～P2-75)

地震の理論・解析法

- P2-01 2011年東北地方太平洋沖地震の遠地波形計算
°坪井誠司・中村武史 (JAMSTEC)
- P2-02 西南日本における超低周波地震の相互相関を用いた検出
°仁里太郎・須田直樹 (広島大院理)・松澤孝紀 (防災科研)
- P2-03 VLBI アンテナ駆動に伴う振動を用いた地震波干渉法による擬似発震記録
°伊藤 忍・名和一成・住田達哉・大滝壽樹・大谷 竜 (産総研)
- P2-04 T-phase のスペクトル特性と震源断層の海底面までの深さとの関係
°蓬田 清 (北大理)
- P2-05 数論的代数構造と地震活動の類似性について
°藤原広行 (防災科研)
- P2-06 散乱体によるエネルギートラップを考慮した地震波エンベロープのモンテカルロシミュレーション
°齋藤清志郎・河原 純 (茨城大)

地殻変動・GPS・重力

- P2-07 GPS データに含まれる地球自由振動の小さな変位シグナル: 2011年東北地震後の場合
°三井雄太・日置幸介 (北大理)
- P2-08 西南日本の固着状態の時間変化
°小沢慎三郎 (国土地理院)
- P2-09 海底地殻変動観測より推定される南海トラフのプレート固着状態推定
°渡部 豪・田所敬一・奥田 隆 (名大)・生田領野 (静大理)
永井 悟・安田健二・坂田 剛 (名大)・久野正博 (三重県水産研)
- P2-10 小さく短期的な変化を検出するための ひずみ計の降水補正 (3)
°木村一洋 (気象研)・露木貴裕・菅沼一成・藤田健一 (気象庁)
- P2-11 PS-InSAR 時系列解析による 2008年岩手・宮城内陸地震後の長期的非定常地殻変動
°大下佑也・太田雄策・海野徳仁 (東北大院理)・三浦 哲 (東大地震研)
- P2-12 DONET データを用いた海洋長周期重力波の検出
°東野陽子 (IFREE)・西田 究 (ERI)・深尾良夫・藤 亜希子 (IFREE)・高橋成実 (DONET)
- P2-13 北海道日高沿岸三石地域の内陸地震と地形, および重力異常との関係に関する予察的検討
°田村 慎 (道総研地質研)
- P2-14 深部低周波微動にともなう地殻変動の観測をめざした短スパン伸縮計の開発
°加納靖之・細善 信 (京大防災研)・尾上謙介
- P2-15 応力記録と歪み記録の比較から得られる興味ある結果
°川崎一朗・石井 紘・浅井康広 (東濃地震研)
- P2-16 2011年東北地方太平洋沖地震前後における Hi-net 高感度加速度計の地球潮汐応答の時間変化
°田中佐千子 (防災科研)
- P2-17 三陸沖孔内地震・地殻変動観測点の ROV 調査から示唆される東北地方太平洋沖地震に伴う地殻変動
°北田数也・荒木英一郎・木村俊則 (JAMSTEC)
篠原雅尚 (ERI)・Gerold Wefer (MARUM)・SO219A scientists
- P2-18 東北日本沈み込み帯・島弧地殻のレオロジー構造と東北沖地震の2次元余効変動解析
°武藤 潤 (東北大理)・芝崎文一郎 (建築研)・伊藤喜宏 (東北大理)
飯沼卓史 (東北大災害研)・大園真子 (北大理)・松本拓己 (防災科研)・岡田知己 (東北大理)
- P2-19 海陸測地観測データに基づく 2011年東北地方太平洋沖地震の余効すべりの時空間発展 (その2)
°飯沼卓史・木戸元之・長田幸仁・藤本博己 (東北大災害研)・日野亮太・太田雄策
伊藤喜宏・鈴木秀市 (東北大理)・佐藤まりこ (海洋情報部)・稲津大祐 (防災科研)

- P2-20 宮城県沖における 2011 年東北地方太平洋沖地震の余効変動
 °長田幸仁・木戸元之・飯沼卓史・藤本博己（東北大災害研）
 伊藤喜宏・太田雄策・鈴木秀市・日野亮太（東北大理）・稲津大祐（防災科研）
- P2-21 日本海溝沿い海底地殻変動観測の強化に向けた海底 GPS 観測用海底局の開発
 °藤本博己・木戸元之（東北大災害研）
- P2-22 海中音速のモデル化による海底局位置推定誤差
 - 海底地殻変動観測の精度向上に向けたシミュレーションスタディー -
 °永井 悟・坂田 剛・田所敬一・渡辺 豪・江藤周平（名大）
- P2-23 別府島原地溝帯周辺における 2011 年東北地方太平洋沖地震前後の歪変化
 °中尾 茂（鹿大理工）・松島 健（九大地震火山セ）・大倉敬宏（京大火山研究セ）
- P2-24 Hi-net 高感度加速度計による傾斜変動データの潮汐応答成分の特徴と原位置キャリブレーション
 °木村武志（防災科研）・廣瀬 仁（神戸大）・松本則夫（産総研）・上垣内 修（気象庁）
- P2-25 PS-InSAR 解析による新潟-神戸ひずみ集中帯（越後平野周辺）の地盤変動抽出の試み
 °小林知勝（国土地理院）
- P2-26 GEONET による主要活断層帯周辺での断層すべりの検知能力
 °水藤 尚（国土地理院）
- P2-27 2012 年 5 月の琉球弧の長期的スロースリップとその前後に観測された重力変化
 °田中愛幸・今西祐一・大久保修平（東大地震研）・名和一成（産総研）
 田村良明・宮地竹史（国立天文台）・池田 博（筑波大）
 岡村盛司・宮崎隆幸（国土地理院）・中村 衛（琉球大）
- P2-28 中央構造線の深部構造と運動様式 - 特に断層北側に注目して -
 °中村保彦・田部井隆雄・久保篤規・田中幹人・一谷祥瑞（高知大理）・加藤佐代正（四国総研）

地球熱学

- P2-29 関東地方下と東北地方下の温度構造から推定した太平洋プレート上面の温度プロファイルと含水量
 °高木瑠美（神戸大理）・吉岡祥一（神戸大都市安全セ/理）
- P2-30 曲面スラブの沈み込みに伴う温度場・流れ場・地殻熱流量の 3 次元数値シミュレーション
 °季 穎鋒（神戸大理）・吉岡祥一（神戸大都市安全セ/理）

地球及び惑星の深部構造と物性

- P2-31 PP 波形による太平洋プレートのリソスフェア-アセノスフェア境界のイメージング
 °西村直樹・八木勇治（筑波大学）
- P2-32 海洋リソスフェアの地震学的構造
 志藤あずさ・°末次大輔（JAMSTEC）・古村孝志（東大地震研）・杉岡裕子・伊藤亜妃（JAMSTEC）
- P2-33 USArray と中国大陸のデータを用いたグローバルトモグラフィー
 °佐々木卓真・趙 大鵬・豊国源知（東北大学予知観）・山本芳裕（大船渡高校）
- P2-34 USArray を用いた北米大陸の減衰構造：2 点法による表面波振幅解析
 °浜田広太・吉澤和範（北大理）
- P2-35 マルチモード表面波を用いたリソスフェア-アセノスフェア境界の推定
 °吉澤和範（北大理）

活断層・歴史地震

- P2-36 石狩低地東縁断層帯南部における反射法地震探査データ取得-厚真測線およびむかわ測線-
 °岡田真介（産総研/東北大）・山口和雄・横倉隆伸（産総研）
- P2-37 新潟上越地域東部の地質構造と震源断層の形状
 °加藤直子・石山達也・佐藤比呂志・蔵下英司（東大地震研）・越谷 信（岩手大）
 戸田 茂（愛知教育大）・豊島剛志（新潟大）・斎藤秀雄（地科研）
- P2-38 函館平野西縁断層帯海域延長部の古地震調査
 °楮原京子（産総研/山口大）・内田康人・仁科健二（道立地質研）・村上文敏・岡村行信（産総研）

- P2-39 東北地方太平洋沖地震の津波堆積物の分布様式
 °小柏尚貴・岡村 眞・松岡裕美（高知大理）
- P2-40 静岡県浜松市西部高塚池跡における津波堆積物調査（予報）
 °藤原 治（産総研）・佐藤善輝（九州大院）
- 地球化学・地下水**
- P2-41 東北地方太平洋沖地震の前後で観測された間隙圧とその大気圧の時間変化
 °木下千裕・加納靖之（京大防災研）
- 地盤構造・地盤震動**
- P2-42 地盤の減衰に関する定数 Q_s 値の深さによる違い
 °原 浩晃・泉谷恭男（信州大工）
- P2-43 地盤最表層のインピーダンス推定法：多層系の取り扱い
 °田中伸明（京大工）・後藤浩之・澤田純男（京大防災研）
- P2-44 表層地盤の非線形応答指標 DNL により捉えられたサイトの非線形応答特性とその経時変化
 °野口科子・佐藤浩章（電中研）・笹谷 努
- P2-45 コーダ波の自己相関解析による浅部地盤構造の時間変化の検出 K-NET データへの適用
 °中原 恒（東北大）
- P2-46 地表震源の波動場に対する地震波干渉法の適用性に関する検討 その2
 °堤 若菜・山中浩明・地元孝輔（東工大）
- P2-47 地震波干渉法に基づく相互相関関数のセンブランス解析による表面波位相速度の推定
 °加藤 圭・地元孝輔・山中浩明（東工大）
- P2-48 微動記録を用いた地震波干渉法による浅部地盤の速度構造の推定
 °安田博信・関口春子（京大防災研）
- P2-49 南大東島における地盤震動調査－島の地震動評価のために－
 °山田伸之（福岡教育大）・立川真太郎・竹中博士（九州大）
- P2-50 長野県飯綱町における 2007 年新潟県中越沖地震の強震動特性について
 °返町雄一・山中浩明（東工大）・杉山長志（中央開発）
- P2-51 1891 年濃尾地震断層帯における長期間連続微動記録から得られたレイリー波群速度のトモグラフィ解析
 °佐藤浩章・栗山雅之・青柳恭平・芝 良昭・東 貞成（電中研）
- P2-52 長周期地震動の面的分布の即時把握について
 °武藤大介・勝間田明男（気象研）
- P2-53 経験的地盤増幅特性評価手法の構築
 °赤澤隆士（地盤研）・入倉孝次郎（愛知工大）
- P2-54 大阪堆積盆地における脈動 H/V スペクトルの差分法による再現（その2）
 °上林宏敏（京大原子炉）・新井 洋（国総研）
- P2-55 K-NET 築館観測点近傍での微動観測
 °山中浩明・地元孝輔・加藤 圭・ヤダブ ダカール
 モハメッド アムルチェ・返町雄一・野上俊介・今井良治（東工大）
- P2-56 ひずみ集中帯地域における浅部・深部統合地盤モデルの構築
 °先名重樹・前田宜浩（防災科研）・稲垣賢亮・松山尚典（応用地質）
 山田雅行（ニュージェック）・森川信之・藤原広行（防災科研）
- P2-57 大阪堆積盆地 3 次元地盤構造モデルの改良に向けて
 °関口春子・浅野公之・岩田知孝（京大防災研）
 堀川晴央・吉見雅行・竿本英貴・林田拓己（産総研活断層地震セ）
- P2-58 微動・重力・磁気データを用いた地盤構造モデル推定の試み
 °石田勇介・野口竜也・香川敬生（鳥取大）・盛川 仁（東工大）

地震一般・その他

- P2-59 気象庁カタログにおける地震検知能力の季節変化
°岩田貴樹（統計数理研）
- P2-60 北野天満宮の石灯籠から京都の地震史を探る（序報）
°加藤 護（京大院人・環）・日岡 惇（京大総人）
- P2-61 M9.0の影響と2011年11月18日に福井県池田町で発生したM4.8に関する一考察
°岡本拓夫（福井高専）・平野憲雄・竹内文朗（元京大）・西上欽也（京大防災研）
- P2-62 昭和南海地震による被害写真を活用した防災啓蒙活動
°久保篤規・山品匡史・橋本祝子・大石祐輔（高知大理）
- P2-63 東海、東南海、南海地震連動性評価研究成果
°金田義行（海洋機構）・平原和朗（京大）・古村孝志（東大）・南海トラフ連動性評価研究グループ
- P2-64 広帯域地震計で観測された捻れモードの常時励起
°西田 究（東大地震研）・汐見勝彦（防災科研）
- P2-65 モンゴルに適用可能なローカルマグニチュード (M_L)
Dashdondog Mungunsuren (RCAG)・°原 辰彦（建築研）
- P2-66 極東ロシア広帯域地震観測網による微動記録の解析
°前田宜浩（防災科研）・高橋浩晃・一柳昌義（北大理）・宮町宏樹・平野舟一郎（鹿大理）
ユーリ レビン・ミハイロフ ワレンチン（ロシア科学アカデミー）
- 大地震の発生に至る過程の多様性の理解とモデル化—何を調べればどこまで予測可能となるのか？—**
- P2-67 スロー地震モニタリングは巨大地震予測に有効か？（2）
°小原一成・五十嵐俊博・福田淳一・加藤尚之（東大地震研）
- P2-68 2011年東北地方太平洋沖地震より大きな地震は東北で発生するか
°大谷真紀子・平原和朗（京大理）・堀 高峰・兵藤 守（JAMSTEC）
- P2-69 マルチタイムウィンドウ津波波形インバージョンによる2011年東北地方太平洋沖地震のすべり分布
°藤井雄士郎（建築研）・佐竹健治（東大地震研）
- P2-70 宮城沖日本海溝海溝軸近傍における高分解能反射法地震探査およびIODP Site C0019掘削データと反射断面の対比
°中村恭之・三浦誠一・高橋成実・小平秀一（JAMSTEC）・B. Cook (Univ. Southampton)
M. Conin (CEREGE)・J. Mori (京大)・F. Chester (Texas A&M Univ.)
江口暢久・S. Toczko (JAMSTEC)・IODP 第343次航海乗船研究者一同
- P2-71 豊後水道～日向灘における地震性／非地震性すべりと南海地震の繰り返し間隔
°中田令子・兵藤 守・堀 高峰（JAMSTEC）
- P2-72 四国中央構造線断層帯の活動と1605年慶長津波地震との関係
°弘瀬冬樹・前田憲二（気象研）
- P2-73 2010年マウレ（チリ）地震からみたAlong-strike Single Segmentationの連動型超巨大地震の特徴
°都筑基博・小山順二（北大理）
- P2-74 大きな破壊に向けた準備過程並びに変形から破壊への移行過程
°堀 高峰・阪口 秀（JAMSTEC）
- P2-75 2011年東北地方太平洋沖地震、宮城県沖モデルの具体化と実験～岸から海溝まで割れる典型的の提示～
°間瀬博文

10月19日（金）13:15～14:45 ポスター会場

ポスターセッション（P3-01～P3-71）

地震活動

- P3-01 過去の地震活動に基づく東北地方太平洋沖における地震区の設定
°佐藤魂夫・平塚晋也（弘前大理工）
- P3-02 Micro seismicity around the Korean peninsula following the 2011 Tohoku-oki earthquake
°Sun-Cheon Park (KMA)
- P3-03 2011年東北地方太平洋沖地震北部震源域での海底地震計を用いた余震観測
°中東和夫・町田祐弥・山田知朗・望月公廣・塩原 肇・篠原雅尚（東大地震研）
村井芳夫（北大）・日野亮太（東北大）・佐藤利典（千葉大）・植平賢司（九大／現防災科研）
八木原 寛（鹿大）・平田賢治（気象研）・小平秀一（JAMSTEC）
- P3-04 海底余震観測データを用いた福島県沖における2011年東北沖地震の高精度震源再決定
°仲谷幸浩・望月公廣・塩原 肇・町田祐弥・中東和夫・山田知朗
篠原雅尚（東大地震研）・矢部 優（東大理）・植平賢司（防災科研）
八木原 寛（鹿大院理工）・平田賢治（気象研）・小平秀一（JAMSTEC）
- P3-05 2011年東北地方太平洋沖地震以後に発生した北海道の内陸の地震活動
°一柳昌義・山口照寛・東 龍介・高田真秀・高橋浩晃・岡崎紀俊（北総研）
大園真子（北大地震セ）・高橋 良（北総研地質研）・黒井和典・眞城亮成
山田卓司・勝俣 啓・谷岡勇市郎・笠原 稔（北大地震セ）
- P3-06 2011年東北地方太平洋沖地震に伴う東日本内陸域における応力場の変化
°吉田圭佑・長谷川 昭・岡田知己・中島淳一・飯沼卓史・伊藤喜宏（東北大予知セ）
- P3-07 東北地方太平洋沖地震に伴う足尾地域の地震活動変化
°小寺祐貴・酒井慎一（東大地震研）・萩原弘子（都庁）
- P3-08 2011年東北地方太平洋沖地震による日光・足尾地域の地震活動の変化
°萩原弘子（都庁）
- P3-09 東海・関東地域における2011年東北地方太平洋沖地震時・地震後の応力変化と地震活動との関係
° B. Enescu（筑波大）・S. Aoi（防災科研）・T. Nishimura（国土地理院）・S. Toda（京大防災研）
W. Suzuki（防災科研）・D. Marsan (ISTerre)・Y. Yagi（筑波大）
- P3-10 南東北から関東沿岸部の太平洋スラブ及びフィリピン海スラブ近傍における東北地方太平洋沖地震前後の応力変化
°高橋 豪・津村紀子（千葉大）
- P3-11 2011年東北地方太平洋沖地震が房総半島スロースリップイベントを促進した可能性について
廣瀬 仁（神戸大理）・°木村尚紀（防災科研）
エネスク ボグダン（筑波大生命環境科学）・青井 真（防災科研）
- P3-12 波形の相互相関を用いた深部低周波地震の分類
°増川和真・小菅正裕（弘前大理工）
- P3-13 三次元地震波速度構造モデルを用いた深部非火山性微動の震源決定
°須田直樹（広島大理）
- P3-14 海半球広帯域地震観測点で観測される微動の調査
°石原 靖（JAMSTEC）
- P3-15 自己浮上式海底地震計を用いた潮岬沖フィリピン海プレート内部の背景的微小地震活動（その2）
°平田賢治・対馬弘晃・小林昭夫（気象研）・山崎 明（気象庁）
馬場久紀・去川寛士（東海大）・勝間田明男・上野 寛・青木重樹
武藤大介（気象研）・吉田康宏（文科省）・前田憲二・横田 崇（気象研）
- P3-16 海底ケーブル・インライン式地震計を用いた1964年新潟地震震源域周辺で発生する地震の震源分布
°真保 敬・町田祐弥・篠原雅尚・山田知朗・望月公廣（東大地震研）・金沢敏彦（防災科研）
- P3-17 1964年新潟地震震源域に設置された海底ケーブル式海底地震計の方位
°町田祐弥・真保 敬・篠原雅尚・山田知朗・望月公廣（東大地震研）・金沢敏彦（防災科研）

- P3-18 日本各地域の中規模繰り返し相似地震の調査
 °勝間田明男 (気象研)・菅ノ又淳一・高橋賢二・平山達也・大山浩明・松島 功・太田良久・菅原政志
 松山輝雄・齋藤祥司 (札幌管区気象台)・高齋祥孝・下川 淳・長谷川安秀・太田健治
 草野富二雄 (仙台管区気象台)・長谷川嘉臣 (大阪管区気象台)・植村英明 (福岡管区気象台)
 古謝秀和・城間康司・川門義治 (沖縄気象台)・佐鯉央教・山本剛靖・溜淵功史 (気象庁)
 鎌谷紀子 (気象大)・岡田正実 (気象研)
- P3-19 1996 年日向灘地震前の地震活動とプレート間の準静的すべり
 °山下裕亮・清水 洋 (九大地震セ)・山本 揚二郎 (JAMSTEC)
- P3-20 色丹島付近における千島海溝軸と直交する太平洋スラブの断裂
 °原田智也・佐竹健治 (東大地震研)・石橋克彦
- P3-21 評価手法「マッチスコア」の提案
 °鶴岡 弘 (東大地震研)
- P3-22 首都圏の地震発生予測モデルの構築に向けて - 2次元から3次元へ -
 °横井佐代子・鶴岡 弘 (東大地震研)・楠城一嘉 (防災科研)・平田 直 (東大地震研)
- P3-23 実体波の振幅データを用いた地殻内微小地震のメカニズム解決の試み
 °行竹洋平 (神奈川温地研)・武田哲也 (防災科研)・吉田明夫 (神奈川温地研)
- P3-24 微小地震を用いたマルチプルアレイの投影較正
 °武田哲也・松澤孝紀・汐見勝彦 (防災科研)・小原一成 (東大地震研)
- P3-25 エンベロープ波形のテンプレートをを用いた本震直後の余震の検知
 °千葉正堯・小菅正裕 (弘前大理工)
- P3-26 震源再決定によるスマトラ断層で発生した大地震の断層面推定とスマトラ断層の地震履歴
 °古川信雄 (建築研)・Biana Rahayu WULANDARI (インドネシア気象気候地球物理庁)
 笠原 稔 (北海道大)
- 岩石実験・地殻応力**
- P3-27 大深度ボーリングコアを利用した応力測定法による初期地圧の推定 (DSCA 法、コア変形法)
 °名雪利典 (大林組)・石川慶彦 (四国電力)・菅原大介 (四C)
 伊藤高敏 (東北大)・岡崎幸司 (ダイヤC)・新 孝一 (電中研)・大野裕記 (四国電力)
- P3-28 四国西部の中央構造線活断層帯南方における BABHY 方式水圧破碎法による地殻応力評価
 °西坂直樹・石川慶彦 (四国電力)・菅原大介 (四C)・安藤賢一 (大林組)
 伊藤高敏 (東北大)・加藤春實 (明間ボーリング)・大野裕記 (四国電力)
- P3-29 大深度における孔内水平載荷試験手法の開発および試験測定
 °石川慶彦 (四国電力)・田村栄治 (四C)・安藤賢一・名雪利典 (大林組)
 加藤春實 (明間ボーリング)・大野裕記 (四国電力)
- P3-30 四国西部におけるボアホールブレイクアウトの連続観測による地殻応力評価
 °菅原大介・田村栄治 (四C)・石川慶彦・西坂直樹・大野裕記 (四国電力)
 長井千明 (大林組)・熊谷敏文 (物理計測C)
- P3-31 粘土鉱物の脱水反応におけるメカノケミカル効果および地震性滑り挙動に与える影響について
 °廣野哲朗 (大阪大)・谷川 亘・石川剛志 (JAMSTEC 高知)・福田惇一 (東北大)・松多範子 (大阪大)
- P3-32 粉体における空隙率と摩擦係数の関係
 °波多野恭弘 (東大地震研)
- P3-33 粒子法を用いた平行断層群生成過程のシミュレーション
 °今井優希・三ヶ田 均・後藤忠徳・武川順一 (京都大学)
- P3-34 大型二軸摩擦実験中に発生したスティックスリップイベントの特徴
 °山下 太・福山英一 (防災科研)・溝口一生 (電中研/防災科研)・東郷徹宏・御子柴 正 (防災科研)
- P3-35 自然地震の断層すべりを模した既存断層面上の限られた領域で起こる不安定滑りに関する大型二軸摩擦実験
 °溝口一生 (電中研/防災科研)・東郷徹宏・山下 太・福山英一・御子柴 正 (防災科研)

P3-36 発震機構解データを用いて推定した兵庫県南部地震震源域周辺の応力場
°松本 聡 (九大地震火山セ)・片尾 浩 (京大防災研)

強震動・地震災害

P3-37 緊急地震速報を併用した三段階震度計の試作
°香川敬生 (鳥取大)

P3-38 携帯情報端末を利用した地震計の振動台実験による観測性能評価
°内藤昌平・東 宏樹・中村洋光・先名重樹・吉澤睦博・藤原広行 (防災科研)
結城 昇・田中洋一・吉田 稔 (白山工業)

P3-39 実時間地震動予測のためのサイト補正の検討
ーコード規格化法により推定されたサイト増幅率を用いた試みー
°青木重樹・干場充之 (気象研)

P3-40 強震動記録を用いた震源断層の大きさのリアルタイム推定
°杉本 亘・泉谷恭男 (信大理工)

P3-41 東南海 OBS と DONET における緊急地震速報の単独観測点処理の適用
°林元直樹・干場充之 (気象研)

P3-42 累積加速度を利用したマグニチュードの即時的推定手法に関する検討
°津野靖士・伊藤賀章・山本俊六・野田俊太 (鉄道総研)

P3-43 強震動域の拡がりに基づくマグニチュード推定
°上野 寛・勝間田明男 (気象研)・甲斐田康弘 (応用地質)・横田 崇 (気象研)

P3-44 断層破壊の広がりを考慮した緊急地震速報の高度化
°倉橋 奨・入倉孝次郎 (愛工大)

P3-45 建物用 IT 強震計の地震速報メールとその活用方法
°鷹野 澄 (東大情報学環 / 地震研)・伊藤貴盛 (東大地震研)

P3-46 2011 年長野県北部の地震を対象とした事後予測
°羽田浩二・藤野義範・福田由惟・山田雅行 (ニュージェック)・大西良広 (京大)・山田真澄 (京大防災研)

P3-47 2011 年東北地方太平洋沖地震の揺れに関するアンケート調査
平松秀行・°山崎 明・阿部正雄 (気象庁)

P3-48 東北地方太平洋沖地震での長周期地震動の経験的予測に関する検証
°座間信作 (消防研)

P3-49 2011 年 3 月 12 日長野県北部の地震 ($M_j6.7$) の短周期レベルの推定
°南雲秀樹 (東電設計)・植竹富一 (東京電力)

P3-50 強震波形インバージョンから推定した 2011 年 4 月 7 日宮城県沖のスラブ内地震の震源過程
°染井一寛・宮腰 研 (地盤研)・入倉孝次郎 (愛工大)

P3-51 2011 年東北地方太平洋沖地震による長周期地震動の伝播と大阪堆積盆地での地震動特性
°佐藤佳世子・岩田知孝・浅野公之 (京大防災研)・加藤 護 (京大人環)

P3-52 岩手県沖で発生した 2011 年東北地方太平洋沖地震の余震 ($M_{JMA}7.4$) の震源過程
°鈴木 亘・青井 真 (防災科研)・関口春子 (京大防災研)・功刀 卓 (防災科研)

P3-53 いわき市周辺の地震の震度分布の特徴と減衰構造
°中村亮一 (東電設計)・植竹富一 (東京電力)

P3-54 地震タイプ、断層タイプ別の短周期レベルと強震動生成域の総面積
°佐藤智美 (大崎総研)・入倉孝次郎 (愛工大)

P3-55 震度情報に基づく 1891 年濃尾地震の震源断層のモデル化 ー岐阜ー一宮断層に関する再検討ー
°栗山雅之・佐藤浩章 (電力中央研)・岩田知孝 (京大防災研)

P3-56 A new approach for estimating high frequency energy radiation of large earthquakes
° Dun Wang, Jim Mori (DPRI, Kyoto Univ.)

- P3-57 相反定理を用いた地震動計算法の提案
 °平井 敬 (名大院環)・福和伸夫 (名大減災セ)
- P3-58 経験的グリーン・テンソル法 (EGTD) を用いた地震動シミュレーション
 °宮腰 研 (地盤研)・堀家正則 (大工大)
- P3-59 三次元グリーン関数を用いた 1995 年兵庫県南部地震の震源過程の再解析
 °郭 雨佳・瀨瀬一起 (東大地震研)
- P3-60 露頭岩盤上で観測される強震動特性の検討
 °芝 良昭 (電中研)
- P3-61 静岡県東部を震源とする地殻内地震の高域遮断フィルター
 °鶴来雅人 (地盤研)・香川敬生 (鳥取大)・入倉孝次郎 (愛工大)
- P3-62 2010 年 El Mayor-Cucapah 地震 (Mw7.2) の際の Los Angeles 盆地における長周期地震動の増幅特性
 °畑山 健 (消防研)・Erol Kalkan (USGS)
- P3-63 東京湾岸における長周期地震動の増幅と位相速度
 °植竹富一 (東京電力)
- P3-64 「京」コンピュータを用いた超大規模並列地震動シミュレーション
 °等々力 賢・前田拓人・古村孝志・森 太志 (東大地震研)
- P3-65 盆地堆積層内における散乱構造の推定 - 関東平野への適応 -
 °武村俊介・吉本和生 (横浜市大)
- P3-66 首都直下地震の強震動予測
 °増田 徹・三宅弘恵・瀨瀬一起・酒井慎一 (東大地震研)・鈴木晴彦・眞鍋俊平 (応用地質)
- P3-67 南海トラフの最大級地震による長周期地震動
 °前田宜浩・森川信之・岩城麻子・青井 真・藤原広行 (防災科研)
- P3-68 数値計算に基づく基盤の不整形性が微動の H/V スペクトル比に与える影響についての検討
 °松島信一 (京大防災研)・F. De Martin (フランス地質調査所)
 F. J. Sánchez-Sesma (メキシコ自治大)・川瀬 博 (京大防災研)・廣川貴則 (山下設計)
- P3-69 常時微動観測と地震観測による潮来市日の出地区周辺の地盤モデルの作成と液状化被害との関係
 °先名重樹 (防災科研)・長 郁夫 (産総研)・松田達生・箕輪秀男 (REIC)・藤原広行 (防災科研)
- P3-70 長期的な建物地震観測による建物健全性調査の可能性 - 地震動の強さと層間変形角の関係の調査 -
 °伊藤貴盛 (東大地震研)・鷹野 澄 (東大情報学環 / 地震研)
- P3-71 The Seiche or Wave Action of Liquefaction of URAYASU City on the 2011 Great East Japan Earthquake Disaster
 °西澤 勝